

可認局遞驛

明治二十年四月十六日發兌

第壹年級

英吉利法律講義錄

第三拾一號

英吉利法律學校

目次

○私犯法 (第二十八號ノ續キ)

法學士

奥田義人
畔上啓策編輯

○動產委托法 (第十九號ノ續キ)

法學士

元田肇
山口正毅編輯

○判決錄 (第二十六號ノ續キ)

法科大學
卒業生

植村俊平
畔上啓策編輯

○刑法 (第二十四號ノ續キ)

法學士

江木衷
同

○親族法 (第二十三號ノ續キ)

法學士

山田喜之助
山口正毅編輯

○羅馬法沿革史 (第二十九號ノ續キ)

法學士

澁谷慥爾
畔上啓策編輯

Privileged communication.

第二節

不問誹議

不問誹議トハ英語ニテ「プリビレシツド、コムミニケイシヨン」ト言ヘル
 字ヲ譯シタルモノニシテ之ヲ原語ノ儘直譯スレハ特權アル通知トモ
 謂フヘシ然レハ唯特權アル通知ト謂フノミニテハ一向誹議ニ關係ナ
 キモノ、如ク見ヘテ其意味モ明瞭ナラサレハ寧ロ不問誹議ト譯スル
 ノ穩當ナルヲ知ルナリ元來誹議犯ニ於テ「プレビレシツド、コムミニケ
 イシヨン」ト言ヘルハ如何ナル意味カト問フニ言語文書ノ性質本來誹
 議ニ屬スヘキモノナルモ其言語文書ヲ用ヅタル人ノ資格又ハ目的如
 何ニ據テ法律ノ之ヲ誹議トシテ問ハス各人皆ナ其言語文書ヲ發スル
 ノ特權アル場合ヲ謂フナリ去レハ其言語文書ノ本質若クハ之ヲ用ヅ
 タル人ノ念慮ヨリ謂ヘハ當然誹議タルヲ免レスト雖レ法律特ニ誹議
 トシテ問ハサルモノヲ謂フコト知ルヘシ

不問誹譏ヲ分テ左ノ二種トス

(甲) 惡意ノ證明ニ據テ法律上誹譏トナル者

(乙) 惡意ノ有無如何ニ拘ラス誹譏トナラサル者

此二種ノ別各由テ來ル所ノ理由ヲ異ニシ又其性質ヲ異ニスルヲ以テ左ニ類ヲ分テ之ヲ論セン

(甲) 惡意ノ證明ニ據テ法律上誹譏トナル者

誹譏ノ定義ヲ講シタル時陳述シタルカ如ク誹譏犯ニハ惡意ノ存在ヲ以テ一ノ要素トナスト雖モ法律ハ通常惡意ノ存在スルモノト推測スルカ故ニ惡意ノ有無ヲ論スルコトヲ許サ、ルナリ去レハ通常誹譏犯ニハ惡意ノ存在ハ豫定シアルモノト知ルヘシ然レモ若シ誹譏者本人自己ノ利害又ハ公益ニ關係アルカ又ハ公私ノ別ナク法律上若クハ德義上ノ義務ヲ盡サンカ爲メニ利害ニ關係アル人ニ對シ通常誹譏ニ涉ル

へキノ言語文書ヲ發シタルキコハ法律ハ通常ノ場合ト反對ノ推測ヲ下シ却テ善意ヲ以テ其言語文書ヲ發シタルモノト推測シテ之ヲ誹譏トシ問ハサルナリ其故ハ斯ル義務ノ關係アル場合マテモ誹譏トシテ法律ニ問フキハ友人間又ハ親子ノ間ニテモ互ニ相戒ムルヲモ出來難クシテ其弊ヤ甚タ大ナレハナリ併シ此場合ト雖モ眞實惡意アルコ於テハ素ヨリ法律ノ保護スル限コアラヌ夫レ然リ而シテ法律ハ尙ホ一步進テ誹譏ニ涉ルへキ言語文書ヲ受ケシモノ實際利害相關セサルモ誹譏者本人ニ於テ至當ノ理由ヨリ利害ノ關係アルヲ信シテ其言語文書ヲ發シタルモノナルキハ同シク之ヲ誹譏トシテ問ハサルナリ今此種類ニ屬スル二三ノ場合ヲ示スヘシ

(一) 他人ノ請求ヲ受ケ其請求ニ應シテ請求者ノ利益ヲラント信シテ發シタル言語文書等

譬へハ予ノ是迄使役シタル下女ヲハ某甲雇入レントスルニ當リ
 其行狀品格等ヲ告ケ吳レヨト予ニ請フニ當リ予ハ某甲ノ利益ト
 ナランコトヲ欲シテ頻リニ其下女ヲ罵詈シタルカ爲メニ某甲ハ遂
 ニ之ヲ雇入レサリシ場合ノ如シ是即チ德義上止ムヲ得サルノ義
 務ニシテ苟モ予ニ惡意ノ存セザル以上ハ法律上之ヲ誹譏トシテ
 一問ハサルナリ然レモ予若シ使役中其下女ニ對シテ不品行ナルコ
 トヲ知シタルヲ以テ其下女若シ某甲ニ雇入レラル、モハ必ス予ノ
 常情ヲ物語リ予ヲシテ耻辱ヲ蒙ラシムルナラントノ恐ヲ抱キ不
 實ノ事柄ヲ構へテ其下女ヲ罵詈シタル時ノ如キハ素ヨリ誹譏ヲ
 以テ問ハルヘキナリ且他人ノ請求モナキニ之ヲ罵詈シタルモ
 如キ又此限ニアラサルヘシ

(二) 技術上ノ批評

譬へハ人ノ著書、圖畫、彫刻物等ヲ批評スルカ如シ斯ノ如キ事柄ハ
世ノ進歩ヲ裨益スルコト大ニシテ法律決シテ誹譏ヲ以テ問フヘカ
ラサルナリ故ニ斯ノ如キ場合ニハ假令誹譏ニ渉ル言語文書ヲ以
テシタルモ法律ハ常ニ善意ヲ以テナシタル批評ト推測スルナリ
然レモ批評者若シ殊更ニ惡意ヲ挾ミテ批評シタルカ又ハ技術家
一身上ノ批評ヲナシタルコト於テハ法律之ヲ不問ニ置カサルナリ
曩キニ時事新報記者カ賣藥ノ事ヲ論シテ賣藥營業者ノ爲メニ訴
ヘラレタル事アリ其社説ヲ讀ミタル人々ハ知ルナラン時事新報
記者カ惡意ヲ挾ミテ斯ル批評ヲナシタリトハ更ニ推測スヘカラ
ス去レハコソ大審院ニ於テハ時事新報記者ノ勝訴トハナレリ
(三) 親戚ノ者配偶者ヲ撰ム場合ニ於テ結婚ヲ妨ケン爲メニ他ノ一
方ノ者ニ就キ發シタル誹譏ノ言語文書

(四) 公ケノ資格上ニ於テ官吏ノコトニ就キ用ヒタル誹譏ノ言語文書

(五) 官吏其職務ヲ行フコ際シ職務ニ關係アル事實取調ノ爲メ發シタル言語文書

是亦同様ニシテ苟モ惡意ノ存在セサル以上ハ誹譏トシテ問ハサルナリ

右ハ管ニ數例ヲ示シタルニ止マルモノニシテ之外ニシテ此種類ニ屬スヘキモノ夥多アリテ一々茲ニ枚舉スルニ遑アラズ諸君只其事件ニ遭遇スル毎ニ能ク之ヲ吟味セハ其不問誹譏タルト否トヲ區別スル蓋シ難キニアラサルヘシ

(乙) 惡意ノ有無如何ニ拘ラス誹譏トナラサル者

此種類ニ屬スヘキモノハ甲種ニ屬スルモノトハ大ニ趣ヲ異ニシテ惡

引渡

(a) Things must be delivered.

ナルヤ否ハ雙方當初ノ意思ニヨリ決スヘキナリ

第二回

第四章 引渡^(a)

無賃委託ハ物件ヲ寄託スル契約タレハ其目的物件ノ引渡ヲ要スルコト勿論ナリ而シテ其引渡ハ委託者本人ヨリ直接ニ受託者本人ヘ引渡スヲ以テ通例トナスト雖モ必スシモ本人ニ直接引渡サルモ受託者ノ代理人若シハ其指圖人又ハ雇人等ニ引渡スモ引渡ノ効アルモノトス但シ受託者本人以外ノ人ニ引渡シタルキハ必ラス受託者ノ代理人トシテ受取りタルコトノ意思明白ナルヲ要ス否レハ引渡ノ効ナガルヘシ會社ノ役員ニ引渡ストキハ相當ノ役員ナルヲ要ス譬ヘハ幹事ニ引渡スヘキモノヲ會計掛ニ引渡シタルトキハ引渡ノ効ナキカ如シ又別段ニ預リタルコトノ明約ナシト雖モ委託ト看做スヘキ場合アリ

動產委託法

無賃委託

Custody must be gratuitous.

譬へハ或物件ヲ抵當トシテ金圓ヲ借用セルトキ金圓ハ既ニ返却セル
モ抵當物件ヲ受取ラサリシトキハ抵當取主ハ無賃委託ヲ受ケタルモ
ノトス又委託者ヨリ直接ニ寄托スル所ニアラスシテ同一ノ結果ヲ生
スルコトアリ即チ前ニ述ヘタル羅馬法ノ偶生無賃委託ト同一ナル場
合ノ如キ是ナリ之ヲ要スルニ無賃委託ハ委託者ノ利益ノ爲メニスル
モノナレハ委託物ノ引渡ハ專ラ委託者ノミノ爲メニ受託者ニ引渡サ
ルハ必要ス故ニ賣買交易讓渡等ノ爲メニ引渡スモ無賃委託ノ引渡ニ
アラサルナリ

第五章

受託無賃

「デポジット」ニ於テハ報酬ナシニ委託ヲ受クルヲ要ストノコトハ前ニ
モ述ヘタル所ニシテ別ニ説明ヲ要セサルヘシ然レモ單純ナル無賃委
託ハ時トシテ有報酬ノ委託ト混合スル場合アリ譬へハ甲者有賃ニテ

任意ノ承諾

乙者ノ厩ヲ借り受テ一馬ヲ飼養セリ然ルニ甲者乙者ニ依頼スルニ該馬ニ注意セシコトヲ以テス此場合ニハ厩ハ有償ナレトモ馬ヲ托シタルハ無償委托ナリ又部屋ヲ賃借シテ荷物ヲ積置キタルマ、該荷物ヲ家主ニ囑托スルキ亦同シ蓋シ其有償ナルト無償ナルトハ委托者ノ責任ニ大小ノ差異ヲ生スヘキモノナレハ細カニ之ヲ區別スルヲ要スルナリ又委托ハ通常其物件ノ持主以外ノ人ニ委托スルモノナレトモ茲ニ取除ノ場合アリ即チ抵當ニ差入レタル場合ニ於テ抵當取主ヨリ一時抵當入主ニ委托スルカ如キ是ナリ此又無償委托ナリトス

第六章 任意ノ承諾

寄托物ヲ引渡スニハ通常任意ノ承諾アルヲ要ス故ニ引渡ニ錯誤アルキハ無効トス然レモ取除ノ場合アリ即チ引渡ハ錯誤ニ出ルト雖モ其委托者現ニ其物件ヲ所持スルトキハ之ヲ其委托者へ返還スルノ義務

動産委托法

(二) Obligation of the depository.

アルカ如シ是蓋シ斯ル場合ニアル所持者カ盡スヘキ當然ノ義務ナリ
トス
又目的物ノ分量又ハ性質ニ就テノ單純ナル錯誤ハ契約ヲ無効トスル
ノ限ニアラス譬ヘハ酒一升ヲ委托スルト云ヒナカラ二升ヲ引渡シ又
ハ越後上米ノ委托ヲ約シテ其下米ト誤マルカ如シ但シ右等ノ場合ト
雖モ詐僞アルトキハ此限ニアラス
又任意ノ承諾ハ種々ノ事情ヨリ證明スルヲ得ヘシ故ニ必シモ明約
アルヲ要セサルモノトス
以上任意ノ承諾アルヲ要スルヲ單純ノ「デポジット」ニ於テ然リトス
ル所ナリ故ニ前ニ述ヘタル准無賃委托ノ場合ニ於テハ大ニ其旨趣ヲ
異ニスルヲ勿論ナリトス但シ此等ノ理由ハ准契約ノ講義ニ於テ自ラ
明瞭スヘキナレハ茲ニ贅セス

(三) What is deemed reasonable care.

第七章

(二) 受托者ノ責任

無賃委託ニ必要ナル條件ニ就テハ前章ニ之ヲ述ヘ了リタリ依テ本章ニ於テハ是ヨリ生スル委託者ノ責任如何ヲ講セントス

無賃委託ノ契約ヨリ生スル委託者ノ責任ニ二種アリ第一預リ品ヲ保管スルヲ第二預リ品ヲ返還スルヲ是ナリ先ツ其規則ヲ掲ケン

第一則 無賃委託ノ受托者ハ相當ノ注意ヲ以テ寄托物ヲ保管スヘシ

第二則 委託者ノ請求ニヨリ又ハ最初ノ約束ニ從テ寄托物ヲ返還ス

(第一則説明) (三) 相當ノ注意トハ果シテ如何ナル注意ヲ指スヤ此レ既ニ總論ニ於テ略述セル如ク概シテ言フキハ無賃委託ニ於テハ小注意アルヲ以テ足レリトス故ニ大過失アルニアラサレハ受托者ハ損害賠償ノ責任セサルモノトス

動産委託法

四十七

然レモ右ハタ、一般ノ概則ニシテ其果シテ如何ナル點マテ小注意アリ、大過失ナキモノトスヘキヤハ到底各場合ニヨリ異ナルモノニシテ就中委托物ノ性質、價格、委托ノ事情、時トシテハ委托者ノ受託者ニ於ケル信用ノ著明ナルキハ其信用及ヒ職業上ニ關スル普通ノ慣習等ハ最モ注意ノ程度ヲ變更スルノ効アルモノトス但シ此等ハ皆事實ノ問題ニ屬スルヲ以テ各場合ニヨリ陪審官ノ相當ト認ムル所ニヨリ決スルナリ

共有者ノ一人共有物ヲ預ル場合ト雖モ委托物ニ對シ要スヘキ注意ノ程度ハ他ノ一般ノ場合ト異ナルコトナシ

茲ニ小注意ヲ欠キタルキ即チ大過失ノ事ニ關シテハ古來學者ノ間ニ於テ議論紛然タリ之ヲ要スルニ一方ノ論者ハ大過失ハ即チ詐欺ナリト云ヒ又他ノ一方ノ議者ハ詐欺ノ徵證ナキモノト雖モ大過失トシテ

受托者ニ損害賠償ノ責ヲ負ハシムヘキモノアリ故ニ必スシモ大過失ハ皆ナ詐欺ニアラスト云フニ在リ然リ而シテ大過失ハ即チ詐欺ナリトシテ受托者ニ責任ヲ負ハシムル論者ニ於テハ受托者タルモノ若シ寄托物ヲ自家ノ所有物ト共ニ亡失損傷スルトキハ損害賠償ノ責ナキモノトナセリ蓋シ自己ノ物品ニ對シ詐欺アルヘキ理由ナケレハナリ故ニ此主義ニ據ルトキハ左ノ如キ論結ヲ生スルニ至ルヘシ曰ク無賃委託ノ受托者ハ寄托物ニ對シ自家所有物ヲ保管スルニ就キ自ラ用フル所ノ注意ヲ以テ保管セハ充分ナリトスト蓋シ(四)サルウ井リヤム、ジョンス、ブラツクス、ストーン、ホルト、ポチエー、ケント等ノ諸氏ハ此ノ説ヲ唱ル人ナリ而シテ此等ノ諸氏ハミナ曩ニ本講義總論ノ末ニ掲ケタル油繪ノ例ニ就キ説論セリ就中ジョンス氏ノ言ニ據レハ若シ斯ル場合ニ於テモ受托者カ自己ノ油繪ヲモ同シク其部屋ニ掲ケ置キ共ニ損傷セ

ルキハ大過失即チ詐欺ナキモノトシ損害賠償ノ責ニ任セサルヲ得ヘ
 シト云ヘリ由是考案チ下スルハシヨンス其他同主義ノ論者ノ説ハ此
 ノ如ク粗忽ナル人ニ物品ヲ委托スルハ必竟委托者ノ痴愚ナルカ故チ
 リ自ラ痴愚ナルカ爲メニ損失ヲ被ムルモ法律ハ之ヲ保護スル限リニ
 アラスト言フモノナリ是豈ニ當然ノ論ト謂フ可ケンヤ彼ノストリー
 氏ハ既ニ之ヲ排斥シテ餘蘊ナシ依テ左ニ其駁議ヲ舉ケ又判決例ヲ示
 シ以テストリー氏ノ説ノ果シテ正當ナルヲ證明セン

(五)
 ストリー氏ノ説ニ據レハ凡ソ小注意又ハ之ヲ欠キタルヨル生スル
 大過失ナルモノハ其人々ニヨリテ存スルモノニアラス多數ノ人ノ間
 ニ普通ノ適度ヲ採リテ定ムヘキモノナリ譬ヘハ同商業人中普通ノ慣
 習ニヨリ用フル所ノ注意ノ如シ法律上相當ノ注意ト認ムルハ必スヤ
 此ノ如ク一定ノ標準ヲ多數人ノ間ニ求メサルヘカラス否ラサレハ決

(a) Doorman V. Jenkins.
2 Adolph. & Ellis 256.

シテ一定ノ程度ヲ見出スヲ得サルヘシ故ニ前例ノ如キ場合ニ於テ受
托者カ仮令自己ノ所有物ヲモ粗忽ニセシトテ多數ノ人カ概テ用ヒサ
ルヲナキ所ノ注意ヲ欠クハ大過失ナシト云フヘカラサルナリ但シ
其詐欺ナキハ明カナリトスルモ自己ノ分スラ損傷セシ故ニ受托物ヲ
損傷スルモ大過失ニアラスト云フハ是人々ニ依テ法律ヲ異ニシ其程
度ヲ一人一己ニ採ルモノナレハ以テ法律上一定ノ標準トナスヲ得ス
故ニジョンズ氏等ノ説ク所ハ妥當ナラスト云フニ在リ其論スル所頗
ル明確ナルノミナラス左ノ例ヲ觀レハ亦英國判決ノ實例ニ合スルモ
ノ、如シ(a)ブワマン對シヤンキンスノ訴訟、此訴件ノ事實ハブアマン
ナル者路傍ナル或茶店ノ番頭ニ金若干ヲ預ケタルニ番頭シヤンキンス
ハ平常其坐右ニ据置キ毎日ノ賣上ヲ投入スル所ノ錢筐ノ中へ入レ置
キタルニ偶、盜アリ其虛ニ乘シテ該茶店ノ賣上ト共ニ竊取シ去レリ依

テアアマノヨリ大過失アリトシテシヤンキンズチ相手取り損害賠償
 ナ請求セルニ在リ而シテ判事デンマン氏ハ判決ヲ下スニ先テ陪審官
 ニ向テ説明シテ云ク此件ニ就テハ被告カ其自家ノ金錢ト共ニ竊取セ
 ラレタル事ハ固ヨリ關係ナキナリ唯受托ノ金錢ヲ店前ニ据置ク所ノ
 錢筐中ニ投入シ置ク如キノ所爲ハ一般普通ノ人カ通常爲スヘキ所爲
 ナルヤ否ヤニ就キ審思判定ヲ下ス可シト陪審官ハ此ノ如キハ小注意
 ナモ欠キタルモノト判定セル旨答申セリ依テ判事ハ被告ハ大過失ア
 ルニヨリ損害賠償ノ責任ヲ負フヘキモノナリト言渡シタリ此裁判ハ
 爾來摸範先例トナリタルモノニシテ其ストリー氏ノ所説ニ合セルコ
 以テ觀ルヘキナリ
 以上シヨンス氏等ノ説ハ皆羅馬法ニ淵源セルモノナリ蓋シ羅馬法ニ
 於テハ大過失ト詐欺ト同一ニ看做シシヨンス氏等ノ主張スル所即チ

受托者ニ於テ自家ノ所有物ニ用フルト同一ノ注意ヲ以テ受托物ヲ保
管スルキハ詐欺ノアルヘキ謂レナキヲ以テコレヨリ生スル損失等ニ
對シテハ受托者無責任ナリト云ヘル論旨ト同一ナリトス

又羅馬法ニ據レハ受托者カ自家所有物ニ用フル注意ヨリ低度ノ注意
ヲ受托物ニ用フルキ及ヒ受托者カ自己ノ物ニ就キテハ特別ナル注意
ヲ用ヒ受托物ニハ通常ノ注意ヲモ用ヒサルキハ無論詐欺アリト看做
サレタリ蓋シ斯ノ如キ場合ニ在テハ明カニ委託者ニ對シ誠實ノ信任
ニ背キタルモノトナスニ依レリストリ一氏ノ說ニテハ以上ノ如キ誠
實ノ信任ニ背キタリト認ムヘキ詐欺アル場合ニ於テハ勿論仮令否ラ
サルキト雖モ人々カ普通ニ用フヘキ注意ヲ欠キタルキハ大過失アリ
トシテ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトナセリ
又^(六)ポチエー氏ノ說ヲ案スルニ是亦等シク羅馬法ヨリ來レルモノナリ

其説ニ曰ク無賃委託ノ場合ニ於テ何故受托者ハ通常ノ不注意(即チ通常過失)ニ對シ損害賠償ノ責任ナキヤト云フニ此蓋シ誠實ノ信任ニ背カサルカ故ナリ何トナレハ誠實ノ信任ニ背カサレハ茲ニ詐欺アルコトナシ是ヲ以テ損害ノ責ニ任セサルナリ譬ヘハ火災ノ場合ニ於テ自家所有物ハ之ヲ持出シ火災ヲ免レタルモ受托物ハ之ヲ持出スノ機會ヲ失シ遂ニ燒亡セリト雖モ是誠實ノ信任ニ背カサルヲ以テ受托者損失ノ責ニ任セサルカ如シ但シ若シ故カラニ之ヲ持出スノ機會アルモ放置シタルキハ是レ誠實ノ信任ヲ欠クモノナレハ受托者ハ損失ノ責ヲ免ル能ハス又此ノ如キ場合ニ於テハ自己ノ物ト受托物トノ價格ノ差異如何ハ以テ詐欺ノ證據トナルヘキモノトスト

上來講述セシ所ハ皆羅馬法ニ淵源セル所ノ謬説ナリ而シテ英國法ニ於テハストリー氏ノ説ノ如ク大過失ナルモノハ或ハ詐欺ノ證據トナ

ルヲアリ又ハ否ラサルヲアリ其詐欺ノ證憑トナルヘキ場合ハ勿論假令否ラサル時ト雖モ大過失アルキハ損失ノ責ニ任セサルヘカラス故ニ英法ニ於テハ惡意若クハ故意ナクトモ損失ノ責ニ任セサルヘカラサレト羅馬ノ法律ハ惡意若クハ故意アルヲ要ス又羅馬法ニ於テハ受託物ヲ損傷亡失セルモ自己ノ物モ共ニ損失セリト云フトテ證明セハ其賠償ノ責ヲ免ル、ヲ得ルモ英法ハ單ニ之ヲ證明スルノミニテハ其責ヲ免ル、ヲ能ハサルナリ

通常ノ場合ニ於テ無償受託ノ委託者カ寄託物ニ對シ相當ノ注意ヲ用フルヲ要スルトノ説明ハ大體上文ニ開說セル如クナレト又左ノ如キ取除ノ場合アリ

委託者若シ受託者ノ性來非常ナル疎忽家ナルカ又ハ放心者(俗ニ云フ氣拔者ノ類)ナルカ又ハ酒狂人其他身持ノ法外不行狀ナル者ナルヲ知

リツ、附托セル場合ハ原則ノ取除ナリトス即チ此ノ如キ場合ニ在テハ委託者ハ受托者ノ粗忽ニ寄托物ヲ保管スルコトヲ默諾セルモノト看做スニアリ

原則ノ取除ニ属スヘキ場合此ノ如キニ過キス余ハ本回ノ講義ヲ了ルニ臨ミテ更ニ一例ヲ掲ケテ原則ノ適用ヲ示サン

(b) ルース對ウ^井ルソンノ訴訟、ルースナル者即チ原告ハウ^井ルソンナル

已ノ兄弟ニ一馬ヲ托セリウ^井ルソンハ之ヲ自己ノ家畜ヲ放養スル所ノ場所ヘ共ニ放チ置ケリ而ルニ垣壞レ馬其壞所ヨリ水ニ落チテ斃レタリ仍テルースハウ^井ルソンチ被告トナシ損害ヲ要償セリ判決ハ被告ニ於テ賠償ノ責アリトセラレタリ但シ此事件ニ於テハ被告ハ平常該場所ヘ自己ノ家畜ヲ放チ置キタレモ自己ノ馬ヲ曾テ放チ置キタルコトナシトアリ

ドリーング對ホルド (11 M. & W. 329) ノ訴件ニ於テ土地ヲ抵當トシテ金
圓ヲ借入レ別ニ保證トシテ保證人カ約束手形ヲ作りシ場合ニ於テ其
後抵當入主カ利子ヲ仕拂ヒシ事實ハ保證人ノ作りシ約束手形ノ出訴
期限經過ヲ中斷スルノ効アリヤ否ノ疑問起リシカ中斷ノ効アルモノ
ト決セリ何トナレハ前訴件ニ於テハ品物代價ト約束手形トハ全ク異
別ノ物ニシテ毫モ相連係スル事ナクシテ互ニ分離シ得ヘキモノナル
モ本訴件ニ於テハ主從ノ關係相密着シテ分離シ得ヘキモノニアラサ
レハ主タル借金ノ利子ヲ仕拂ヒシノ一事ハ以テ直ニ從タル契約ニ影
響シ其出訴期限經過ヲ中斷スルニ足レハナリ(以上二訴件ハ其實上
ニ區別アリト論スレトモ其實ハ互ニ抵觸シタルモノ、如シ)又アトキ
ンス對トレットゴールド (2 B. & O. 23) ノ訴件ニ於テ連帶及各別約束手
形ノ振出人ノ一人カ死去ノ後他ノ拂出人カ利子ヲ仕拂ヒシ事實ハ其

ノ死去セシモノ、遺産管理人ニ對シ出訴期限ヲ中斷セスト判決シタ
 リ何トナレハ連帶義務者中ノ一人ノ死亡ニヨツテ連帶義務ハ消滅シ
 テ各別ノ義務ヲ存スルノミナレハナリ又スレーター對ローソン (L. B.
 & Adol. 367) ノ訴件ニ於テ連帶義務者ノ一人ノ遺産管理人カ債主ヘ仕拂
 ナ爲セシノ一事ハ他ノ義務者ニ對シ出訴期限中斷ノ効ナシト判決セ
 リ又パーレー對ストットノ訴件ニ於テ連帶義務者ノ生存中ニ他義務
 者ノ一人カ負債ノ一部ヲ仕拂ヒシ事柄ハ其後死去シタル義務者ノ遺
 産管理人ニ對シ出訴期限中斷ノ効アリト判決シタリ
 リックバーロー對メイソン *Lickbarron v. Mason* (1 Sm. L. C. 595)
 甲會社アツテ千七百八十六年七月二十二日ニ荷物ヲ船積シテ乙ニ宛
 テ之ヲ送レリ丙船長ハ該荷物ニ對シ四枚ノ荷積證書ヲ發シ内二枚ハ
 無記名裏書ニシテ即日乙ニ送り一枚ハ甲之ヲ所持シ一枚ハ丙自ラ之

ナ所持セリ而テ甲ハ未タ乙ヨリ荷物ノ代價ヲ受領セサルヲ以テ同月二十五日ニ乙ニ對シ四百七十七磅ノ爲替手形ヲ振出セリ乙モ亦同日ニ荷積證書ヲ原告へ讓渡シ之ニ對シテ五百二十磅ノ爲替手形ヲ振出セリ而シテ其後原告ハ該手形ヲ引受ケテ其金額ヲ仕拂タリ然ルニ甲ヨリ乙ニ對シテ發行セル爲替手形ノ仕拂期限前ナル同年八月十五日ヲ以テ乙ハ破産シタルハ該手形ノ仕拂ヲ拒絕セルニヨリ甲ハ振出人ノ責任トシテ其手形ノ金額ヲ仕拂ヒタリ故ヲ以テ八月二十一日ニ至リ甲ハ自己ノ手中ニ留在セル荷積證書ニ裏書シテ之ヲ被告ニ送りシニ其證書カ被告ノ手ニ着シタル日ニ荷物モ亦送達地ニ到着セルヲ以テ被告ハ甲ノ爲メニ其荷積證書ヲ船長丙ニ示シテ該荷物ヲ受取り之ヲ賣却シテ五百七十八磅ヲ得タリ由テ原告ハ被告ニ對シ賃錢及ヒ其他ノ費用ヲ辨シテ該荷物ヲ受取ラノコトヲ請求シタルトモ被告之ニ

應セス故ニ本訴ヲ起セリ判事曰ク一般原則トシテ善意ノ對手カ第三
 位ノ人ニ損害ヲ蒙ムラシムル場合ニハ其損害ノ基因ヲ與ヘタル者カ
 因テ以テ生シタル損害ノ結果ヲ負ハサルヘカラス若シ被告ノ論辯セ
 ル如クニシテ荷物仕出人ハ荷物受取人ノ破産ノ場合ニ於テ荷物引渡
 ナ中止スル能ハスシテ唯タ其破産管財人ニ對シテ配當金ヲ得ルノミ
 ナラハ荷出人ノ損害ハ非常ナルハ則チ然リ然レトモ奈何セシ其非常
 ノ損害ナルモノハ被告自身カ醸生セシメシモノナルチ何トナレハ被
 告ハ買受人チ信用シテ賣リタルモノナレハナリ抑モ賣買ノ意思雙方
 相ヒ投合シテ引渡ヲ爲セハ其物品ノ所有權ハ直ニ買人ニ移リ買人カ
 即時ニ破産スルモ賣人ハ其物品ヲ取戻スチ得サルチ本則トス然リト
 雖モ賣買主雙方カ彼此相隔絶セル地ニ在テハ其物件カ買人ノ掌裡ニ
 歸セサル間ハ其取引ノ手續未ダ完結セサルチ以テ若シモ中途ニシテ

右ニ論述シタル所ハ則チ自由刑ナリ
 監獄ニテ自由刑ヲ執行スルニ付如何ナル方法ヲ用ヰテ刑ノ目的ヲ達
 スルヤ改良主義ヲ取ルト懲戒主義ヲ取ルトニ依リ自ラ其方法ヲ異ニ
 ス可シ改良主義ニ在リテハ囚徒カ後日世ニ出テ勞働セル様ニ爲シ懶
 惰ナル者ノ罪ヲ犯シタルトキハ之レヲシテ耕作ノ役ニ就カシメ盜ヲ
 爲シタル者ニハ食ヲ得ルノ方ヲ知ラシムルニ在リ學者ノ說ハ概チ改
 良主義ナレトモ英吉利ニテハ實際然ラス通例ハ鉄ノ車ヲ幾回トナク
 回轉セシムルヲ以テ囚徒ノ業トナスベンサムノ如キハ其實利主義ヲ
 以テ大ニ英吉利ノ監獄制度ヲ駁撃シタリシカ英國立法官ハ更ニ頓着
 ナク再度獄則チ改革シタレトモ決シテ轉車ノ法ヲ改メサルナリ
 編者曰ク左ノ一篇ハ江木先生カ地方判事試験ニ出立サル、ノ前ニ
 臨ミ演說セラレタルモノニ係ル

監獄主義ヲ論ス

凡ソ監獄ノ主義ニ改良ト懲戒トノ二者アルコトハ既ニ講述シタル所ナレトモ今一層進テ此二主義ノ利害得失ヲ詳論ス可シ抑モ懲戒主義トハ精神上及勞役上囚徒執ル所ノ業務其身ニ苦痛ヲ覺エ倦厭ノ情ニ堪ヘス獨リ現ニ在獄ノ囚徒ノミナラス他ノ良民ヲシテ囚獄ノ恐ルヘキヲ感セシムルモノヲ云ヒ改良主義トハ監獄ノ制規專ラ宗教教育ニ因リテ囚徒ノ良心ヲ涵養シ其服役事業モ亦專ラ有益ニシテ他日囚徒カ生計上ノ便ヲ計ルモノヲ云フ然リ而シテ監獄ノ直接ニ據テ以テ本末主客トスヘキモノハ二者何レニ在ルヘキカ則チ改良ノ方法ヲ主ト爲シ本ト爲シ懲戒ノ方法ヲ客ト爲シ末ト爲スヘキカ將タ亦之ニ反スヘキカ是レ大ニ議論ノ生スル所ナリトス然レトモ予ノ思考スル所ニ依レハ監獄ノ主義ハ到底懲戒ヲ本トセサルヘカラス今

改良主義ヲ實行シ得ヘシトス誤想スルノ源由ハ左ノ數者ニ歸スルモ
ノ、如シ

第一 古昔監獄ノ學未タ開ケサルニ當リテヤ監獄ノ制度凡百ノ惡弊
ヲ生シ囚徒ヲ驅使スル非常ニ殘虐ナルヨリ監獄ハ却テ惡人ヲ養成ス
ルノ教場タリシカ現時警察ノ方法ト共ニ監獄ノ制度モ進歩シ學者囚
徒ヲ改良スルノ必要ヲ論シタルヨリ其說新奇ニシテ世人ノ贊成ヲ博
スルヤ之ヲ信スルノ餘遂ニ末葉タル改良ノ方法ヲ以テ其本幹タル懲
戒ニ譲リ前日ノ反動ヲ生シ却テ改良主義ヲ以テ監獄制度ノ本性トス
ルニ至レリ然リ而シテ歐米諸國ニ於テ改良主義ヲ取ル所アリト雖モ
未タ甚タシキ弊害アルヲ見サルハ他ニ監獄制度ノ整頓完美ナルニ由
ルモノニシテ主義其者ノ善ナルニアラサルナリ

第二 改良主義ニ在リテ監獄ノ目的ト方法即チ主義トヲ混同セリ監

獄ノ目的ハ固ヨリ天下ノ良民ヲ得ルニアレトモ此目的ヲ以テ改良ノ方法ト誤認シ本主タル懲戒ヲ施シ而シテ後生スル自然ノ結果ヲ見テ直チニ良民ヲ製造セント企テ手細工ヲ用ヒントスルモノナリ監獄ノ目的ハ良民ヲ得ルニ在リトスルハ可ナリ然レトモ改良ヲ以テ方法ト爲スハ不可ナリ

第三 改良主義ハ宗教ノ旨意ニ基ク蓋シ宗教上ニ於テハ凡ソ人類ハ如何ナル兇惡ナルモノト雖モ之ヲ教導スレハ幾分カ善道ニ歸スルナリト然レトモ實際之ヲ適用スルモ其效驗ヲ見サルヘシ何トナレハ囚徒タルモノハ幼時ヨリ多少家庭教育ヲ受ケタルモ尙ホ良民トナルヲ得サリシモノカ何ヲ以テ不充分ナル監獄内ノ教導ヲ以テ遽ニ善人ニ化スルモノナランヤ嗚呼囚徒ヲ教育セントスルハ事己ニ晚シ論者何爲ゾ囚徒トナラサル前ニ教育セサルヤ故ニ改良主義ハ改良モ全カラズ

懲戒モ充分ナラス遂ニ俗ニ云フ虻モ取ラス蜂モ取ラサル如キ監獄制度ヲ見ルニ至ラン懲戒コソ通常改良方法ノ及ハサル最後ノ最良教育ト心得テ可ナリ

第四 改良主義ヲ實行セント欲セハ莫大ノ經費ヲ抛タサルヘカラス彼ノ白耳義ウエーキヒールト諸邦ノ如ク囚徒一人ヲ容ルヘキ獄舎ヲ建築スルニ六百圓ヲ要シペンセルバニヤ獄ノ如ク一室千五百圓ヲ要スル一萬有餘ノ獄室ヲ備ヘ或ハ一ケ年五百人ノ囚徒ニ八百萬圓餘ノ雜費ヲ要スルペンタビル獄ノ如ク總テ隔離法或ハ沈黙法等ヲ設クル獄制ニ依ラサルヘカラス則チ囚徒一室ニ獨坐閑居シ萬感交々集タル機ニ乘シ懇々説諭ヲ加ヘレハコソ改良主義ノ效驗モ行ハルヘシ若シ混同制度ニテ喧雜極リ無キニ際シ之ヲ誘導感化シテ良結果ヲ得ントスルモ頗ル難事ト云ハサルヘカラス時ニ或ハ囚徒ノ誘導ニ感化ス

ルコトアルモ是レ稀有ノ一美談ノミ未タ以テ大體ヲ論スルニ足ラサルナリ
 前ニ論シタルハ精神上ニテ改良ノ議論ナレトモ服役事業上ニ於テスルモ亦同シ凡ソ改良主義ニ於テ授クル事業ハ眼前ニ著シキ結果アル勞役ヲ以テ正業ニ就クコトヲ誘導スル方法ナレトモコレ囚徒放免後ノ良處置ヲ得タル國ニアラサレハ行ハレサルナリ西洋諸國ニテハ私立ノ放免囚徒保護會社ナルモノヲ設ケ放免囚徒ノ性質及、獄内ニ於テ受ケタル事業ノ種類ニ應シテ資金器械等ヲ貸付シ或ハ殖民地ニ移住セシムルト云フ未タ斯、ル制度ノ設ケ無キ諸邦ニ在リテハ仮令能ク囚徒ヲ改良シ得ルモ再犯ヲ防ク方法ナキナ奈何セン
 第五 西洋諸國ニ於テ改良主義ヲ執リ獄制ノ寛大ナル所以ノモノハ陪審ノ制大ニ與リテ力アルモノナリ蓋シ陪審官ハ概シ法律ニ通セス

慈善心ニ富ムモノナレハ囚徒ノ服役スル相當ノ勞役モ之ヲ憐ムノ情
深ク若シ獄制嚴格ナルコトアラハ陪審官ハ多數ノ犯者ニ無罪ノ審判
ヲ言渡スノ恐アルヲ以テ政畧上止ムヲ得ス多額ノ經費ヲ省ミテ改良
主義ヲ取ルモノ、如シ故ニ西洋監獄ノ定規及ヒ囚徒ノ服役方法ハ外
形上甚寛大ノ觀アレトモ其實無上ノ苦痛ヲ覺ユルモノアリ

第六 西洋諸國就英國ノ如キハ人民貧富ノ懸隔甚シキヲ以テ貧民
ハ飢餓ニ迫リ罪ヲ犯スモノ多キヨリ貧民救育事務ト囚獄事務トヲ相
對シ從ヒテ改良主義ヲ以テ監獄制度ニ實行セント欲スルモノ少カラ
ス然レトモ東洋ノ如ク貧富概テ平均ヲ得テ貧民生計ノ度モ亦未ダ困
難ノ極度ニ達セサル邦國ニアリテハ改良主義ノ監獄制度ハ蓋シ急務
ニアラサルヘシ然レトモ是等ノ點ハ實際ノ統計ニ照シテ犯者ノ過半
果シテ犯罪セサレハ飢渴スルヲ以テ止ムヲ得ス惡事ヲ爲スノ情況ア

ルヤ否ヲ詳査セサルヘカラサルナリ
 左レハ改良主義ノ實行スヘカラサルコトハ畧ホ明ラカナラン
 懲戒主義ニ於テモ敢テ改良方法ノ更ニ取ルヘキ所ナシトスルニアラ
 サレトモ只懲戒ヲ主トシテ改良ヲ客トスヘシトスルニ在リ則チ囚徒
 ハ嘗テ良民タリ嘗テ社會ニアリタレトモ遂ニ良民タルコト能ハサル
 者ト概定シ監獄ノ目的ヲ達スル最終手段トシテ懲戒方法ヲ用ユルヲ
 以テ其本則トスルモノナリ今懲戒主義ノ思想ヲ分拆スレハ内外二種
 ノ元素ヲ含有スルモノタルヲ知ルヘシ
 内部元素 罪惡ノ思想ト懲戒ノ思想トハ相伴ヒ相接シ罪惡アレハ懲
 罰必ス之ニ從フトスル人間自然ノ情ヲ基トシ懲罰ヲシテ眞ニ懲罰ノ
 苦痛アラシメ囚徒ヲシテ其罪惡ノ結果ヲ感セシムルモノナリ
 但之レニ附加スルニ往々改良ノ方法ヲ以テスレトモ先ツ精神上ニ苦

痛、情、ヲ、起、サ、シ、メ、而、後、後、悔、悟、懺、悔、ノ、心、ヲ、起、サ、シ、メ、ン、ト、ス、ル、ニ、外、ナ、ラ
ス、換、言、ス、レ、ハ、囚、徒、服、役、ノ、事、業、ハ、苦、痛、ヲ、主、ト、シ、本、ト、シ、之、ニ、附、加、ス、ル、改
良、ハ、此、ノ、苦、痛、ニ、ヨ、リ、テ、生、ス、ル、悔、悟、ノ、心、ヲ、促、ス、ニ、過、キ、ス、シ、テ、決、シ、テ、直
接、ノ、手、段、ヲ、以、テ、囚、徒、ヲ、誘、導、セ、ン、ト、ス、ル、モ、ノ、ニ、ア、ラ、ス、論、者、或、ハ、云、ハ、ン
歐、州、諸、國、ハ、監、獄、ノ、制、度、寬、大、ナ、ル、ニ、尙、ホ、能、ク、效、績、ノ、甚、著、大、ナ、ル、モ、ノ、ア
ル、ニ、ア、ラ、ス、ヤ、ト、然、レ、モ、此、效、績、タ、ル、ヤ、果、シ、テ、改、良、主、義、ヲ、實、行、ス、ル、ヨ、リ
シ、テ、得、來、ル、モ、ノ、ナ、ル、カ、將、タ、能、ク、苦、痛、ノ、最、モ、甚、シ、キ、勞、役、ヲ、撰、ヒ、得、テ、懲
戒、ノ、本、旨、ヲ、達、ス、ル、ヨ、リ、得、來、ル、モ、ノ、ナ、ル、ヤ、之、ヲ、疑、ハ、サ、ル、ヲ、得、ス、殊、ニ、歐
米、ニ、テ、ハ、其、苦、痛、ノ、甚、シ、キ、邈、ニ、本、邦、ノ、懲、役、ノ、比、ニ、ア、ラ、サ、ル、勞、役、ア、リ、况
ン、ヤ、改、良、主、義、ヲ、本、ト、ス、ト、揚、言、ス、レ、モ、獄、舍、ノ、制、規、甚、タ、苦、痛、ヲ、覺、ユ、ル、モ
ノ、ア、ル、ニ、於、テ、チ、ヤ、

外部ノ元素 良民ヲシテ囚獄ノ嫌忌スヘキ小天地タルコトヲ知ラシ

メテ以テ之ヲ恐嚇シ其犯罪ヲ豫防ス
 論者或ハ批難セシテ監獄ヲ以テ良民ヲ恐嚇シ良民ノ犯罪ヲ豫防セント
 スルカ如キハ囚徒ヲ以テ一般良民ノ犯罪ヲ戒ムル器械トナシ人生平
 等ノ公理ヲ紊ルモノニアラスヤト然レトモ懲戒主義ハ答テ云ハン囚徒
 ヲ以テ器械トスルハ論者ノ言ノ如ク然リ然レトモ人生平等ノ公理ヲ
 紊ルモノニアラス原來人生平等ハ人民相互間ニ於テスヘキモノニテ
 人民ト國家ト相對スルトキハ國家ハ固ヨリ一人一個ニ勝ツハ組織上
 ノ原理ナリトス而シテ之ヲ詳論スルハ一朝一夕ノ能ク悉スヘキ所ニ
 アラサレハ之ヲ畧シ左ニ懲戒主義ニアラサレハ決シテ其明解ヲ得ヘ
 カラサル一二ヲ説示スヘシ(一) 良民ヲ恐嚇スルノ意ナクシテ囚徒ノ
 性質兇惡コシテ到底改良ノ見込ナキモノハ刑ヲ執行スルニ及ハサル
 ニアラスヤ(二)囚徒ノ性質順良ニシテ前非ヲ悔悟シ確タル改良ノ目

放免後ノ
囚徒ヲ救
濟スル制
度米國ノ
制

的アル囚徒ハ刑ヲ執行スルニ及ハス直チニ放免スヘシ又犯者ニシテ
死刑ニ該ルモノハ更ニ刑ヲ言渡スニ及ハサルヘシ而シテ尙ホ刑ノ執
行ヲ要スルモノハ犯罪豫防ノ精神ニアラスシテ何ゾヤ
右ニ論スル如ク監獄ノ主義ハ徹頭徹尾懲戒主義ヲ離ル、能ハサルモ
ノナリ然リ而シテ所論甚タ酷薄ニ傾キタリト雖モ予ハ敢テ囚徒ノ一
身ヲ惡ムノ意ニアラサレハ囚徒放免後ニ於テ之ヲ救濟スルハ實ニ希
望スル所ナリ請フ之ヨリ西洋ニ於テ如何ナル制度アリテ放免後ノ囚
徒ヲ救濟スルヤヲ舉示スヘシ

米國 慈惠博仁ノ事業ハ何事ヲ問ハス其起源ヲ米國ニ發スルヲ以テ
通常トス放免ノ囚徒救濟ノ事ニ於テモ亦米國ヲ以テ濫觴トセサルヲ得
ス嘗テヒラデルヒヤノ監獄近傍ニ住シタルリチヤードホ井スタルト
稱スル慈惠者アリ日々放免セラレタル囚徒ノ貧困精神身體共ニ衰ヘ

タル情ヲ親視シ憫情頻リニ發スルノ餘リニ近憐ノ慈善者ト謀リテ遂ニ囚徒ノ救濟ヲ目的トスル一協會ヲ設ケタリ是レ千七百七十六年二月七日ノ事ナリトス此ノ協會々員中ニハ有名ナルベンシヤミン、フラソクリン氏モ亦加ハレリ實ニ此協會ハ囚徒ノ救濟ヲ事トスルモノニ於テハ世界最古ノ一會ナリト云フヘク今日ニ於テハ米國全州中最大協會ノ一トハナレリ其後ニユーハンブシヤイヤ、マツサチユセツト、ロドアイランド、コンチチカット、ニユーヨルク、マリローランド、ウヰルジニヤ、ケンタッキー、イリノイス、カリホルニヤ等ノ諸州ニモ同一ノ目的ヲ有シタル協會次第ニ振起シ通シテ中央統一ノ組織ヲ爲シ其事業モ亦甚タ活潑ナルノ好評アリ

又右諸協會中ニハ官ノ保護ヲ受クルモノモ少カラス設令ハニユヨール州救濟協會ハ年々五千弗ノ保護金ヲ受ケ且ツ州官吏ニシテ力ヲ

此ノ協會ノ事業ニ盡ス等ノ如シ
英國ニ於テハ千八百六十七年ニ至ルマテ只十三ノ救濟協會アリシノミナリシカ千八百六十二年七月十九日ノ法律ニ由リ國家政府ノ監督ニ服スヘキ協會ハ各州ノ金庫ヨリ救助シタル囚徒毎ニ二(ポント)宛ノ金額ヲ下附スルコトヲ許シタルヨリ實ニ非常ノ結果ヲ生シ千八百七十七年ハ愛蘭、蘇格蘭ヲ除キ英國ノミニ於テモ五十有一ノ救濟協會ハ專ラ七年以上ノ刑ニ處セラレタル囚徒ヲ入監セシムル集治監ヨリ放免セラレタルモノヲ救助シ四十有七ノ救濟協會ハ各州ニ屬スル獄舎ヨリ放免セラレタル者ヲ救助スルニ至レリ
爾來放免囚徒救濟ノ事業ハ益々其歩ヲ進メ千八百七十八年ニ至リテハ英國皇太子プリンスオフウェールズ殿下ノ統括ノ下ニ服スル囚徒改良及ヒ救護組合(リフオーメイトリーエントレフユーシユニオン)ナ

ル者起レリ其組織書ノ要旨ヲ畧述セントス
右囚徒改良及ヒ救護組合ノ設立ニ由リテ從來分離シテ各々個々活動
ヲ爲シタル諸方ノ協會ヲ統一シ一個ノ常置委員ノ配下ニ歸セシメタ
リ而シテ中央局ニ於テハ協會全体事業ノ指揮擴充ニ關スル事項ヲ議
決シ其議決ハ常置委員ノ思料ニ任シテ之ヲ實行ス
千八百七十八年間協會ノ救濟シタル囚徒ノ數ハ總計一萬〇五百八十
二人内救濟ヲ拒ミタルモノ三百四十九人惡行ノ爲メニ救濟ヲ解キタ
ルモノ九百六十四人水夫トナリタルモノ四百二十七人舊職ニ復シタ
ル者四百九十四人新ニ職業ヲ得タルモノ千五百七十九人朋友知己ニ
送附セル者千二百七十五人移住セシ者五十四人徵兵ニ應シタルモノ
十二人ナリ
右協會ニハ政府ヨリ年々凡三萬六千「マルク」ノ金額ヲ下附シ後來ハ尙

年々八萬「マルク」ノ巨額ヲ下附スルコト、セリ但シ千八百六十二年ノ
 法律ニ由リテ定メタル囚徒一人四十二「マルク」宛ノ下附金ヲ超過スル
 コトナカルヘシ
 右協會ニハ專務ノ一局アリテ時々雜誌ヲ發行シ又ハ報告ヲ爲ス等ノ
 コトヲ掌トル
 佛國 佛國ニ於テモ十年迄ハ只巴里府ニ孤立セル救濟協會アリシノ
 ミ千八百六十九年ニ至リ英國ヨリ移リタル宣教師ロビン氏 巴里府ニ
 於テ「プロテスタント」宗派放免囚徒ノ救濟協會ヲ設立シ翌年ニ至リテ
カマルク氏救濟協會「ソシエテ」セテラルバト「ロナージュ」ヲ設ケ一方
 ニ於テハ巴里府放免囚徒ノ救濟ヲ事トシ一方ニ於テハ佛蘭西全國諸
 協會中央機關トセリ此一協會ハ千八百七十五年ニ於テ公益ヲ目的ト
 スル制度ト見做サレ法律上無形ノ一個人タル資格ヲ得有シ千八百七

十七年ニ於テハ法律ヲ以テ年々二萬「マルク」ノ金額ヲ國庫ヨリ下附セラル、コト、ナリタレトモ又一方ニ於テハ宦衙ノ允許ヲ得タル會規ニ基キテ之ヲ使用シ且ツ年々ノ事務及會計報告ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スルニ至レリ

政府ハ各郡ニ一協會ヲ設置センコトヲ欲シ千八百七十九年ニ至ルマテ存立セシ四十有余ノ協會ヲ以テ監獄總協會ノ統括ニ歸セシメント企テタリシガ遂ニ同年間ニ及ヒ救護協會ト巴里府ノ監獄總協會ハ連合シ救護會雜誌ヲ(ルヴユーリジュパトロナーシユ)ト稱スル者ヲ發行シ其救助シタル事業ノ報告ヲ公ケニセリ

澳國ノ制

澳國 ウイニナ 維也納府ニ一協會アリ囚徒ノ家族ニシテ衣食ノ道ナキモノヲ救助シ放免囚徒ヲシテ業ニ就カシメタル製造場主等ニ賞金ヲ給與スル也會員ハ凡ソ八百三十六人ニシテ皇帝皇后及皇族モ亦之レカ會員

タリ千八百七十九年ニ放免囚徒三百七十六人囚徒ノ家族九十六人(其中幼兒二百三十人)ヲ救助シ又在監囚徒ノ家族二十八人(其ノ中幼兒三十人)ヲ救助セリ

プラツクニ於テモ千八百三十八年一協會アリ丁字ヲ知ラサル兒童ヲ教育スヘキ救育會ト共同シテ救濟事業ヲ行フ此協會ハ毎年二月十八日午前第十一時ニ或無名氏ヨリ千〇五十[フロリン]ノ贈與金ヲ受ク而シテ此ノ贈與ハ當ニ一ツノ書面ヲ添エダリ今之ヲ拔抄ス

千八百五十三年二月十八日即チ我カ天皇陛下ハ眞神ノ惠ニ由リ基督敎派ノ教育ヲ受ケサル一人ノ謀殺未遂犯ヲ特赦シタルノ紀念トシテ放免囚救濟ノ仁惠ヲ事トスル協會ニ云々

狹少地方ニ就キテハシユワイツノ救濟協會ハ一千有餘ノ會員アリ千八百七十六年中救助ヲ爲シタル放免囚徒凡ソ三十六人救濟費四百〇

九「フランク」ナリ又最モ狭少ナルノイシヤ「イテル」邑ニ於テハ千八百七
 十一年一ノ獄舎ヲ建設セシ以來一協會ヲ置キ今日ハ會員凡ソ千五百
 二十人ニシテ七ヶ年間四百四十八ノ放免囚徒ヲ救濟セリ即チ平均一
 年間ニ六十三人トス

獨逸諸邦

獨逸ニ於ケル囚徒救濟制度ハ宣教師テオドルフリード子

ル氏ヲ以テ其始祖トス蓋シ氏カ此制度ヲ起サント企テタルハ監獄ノ
 ノ天女ト稱セラレタル英國ノ婦人エリサベスフレイ氏ノ誘導ニ出テ
 タルモノニシテ千八百二十六年初メテドツセルドルフニ一個ノ監獄
 協會ヲ設置セリ此ノ協會ハ尙ホ今日ニ存シテ「ライオン」ニツシユヅエル
 フアリツシユ「監獄協會」ト稱シ甚タ盛大ノ勢アリ又「パウラ」ノ老友等ヲ
 起シ千八百三十六年ニ教育院ヲ設ケタルモ亦此ノフリード子ル氏ナ
 リ今日ニ至リテハ獨逸國中五十有二ノ教育院ト此ノ中ニ救助セラレ

タル四千余人ノ婦女トハ皆同氏カ其基ヲ立テタルタルノ結果ナリト
謂フヘシ

ハイデンニ於テハ敢テ救濟協會設立ナキニアラサルモ其事業尙ホ狭
少ニシテ茲ニ記スルニ足ルモノナシ
ハエールンニ於テハ一千八百六十一年以來國王ノ統括ニ屬スルムン
シエン放免囚徒救濟協會ヲ興シ今日ニテハ二千〇百人余ノ會員アリ
其事務ハ總會員中ヨリ撰定シ總會ヲ代表スヘキ四十八人ノ委員之ヲ
掌リ毎月曜日ノ夕刻ヨリ常會ヲ開キ救濟ヲ求ムル放免囚徒ノ許容監
督及ヒ其救濟方法等ヲ議決ス又此會議ニ於テハ此會ノ費用ヲ以テ任
命シタル事務員アリ救濟ヲ爲スヘキ放免囚徒ノ行狀及ヒ其必用物等
ヲ報告シ且ツ放免囚徒ノ良否如何ハ警察署員ニテ本會ノ會員タルモ
ノヨリ直チニ其報告ヲ受ク故ニ此會ノ事業ノ極メテ活潑ナルハ殆ン

ト他ニ見ルコト能ハスト云フ此協會ハ又上バエールン區内ノ地方協會十一ヶ所ノ中央會タル資格ヲ有シ其財産ハ獨立シテ之ヲ處分シ唯會計年度ノ終リニ於テ會計表ヲ此等諸協會ニ送付スルコトアルノミ

○此會ノ收入ハ其所有財産利子(家屋ノミニテ凡ソ四萬マルク)皇室ノ恩賜金六百マルク(殆ント九名以上ノ皇族本會々員)タリ邑長ノ寄附二百マルク(當府火災保險會社ノ利益割八百六十マルク)千八千七十九年「ヨハンニスト」ノ協會ノ寄附一千マルク(會員ノ出金凡ソ四千五百五十「マルク」ナリ)今同會第十九回事務報告ヲ見ルニ千八百七十九年ニ於ケル總收入一萬〇五百六十八「マルク」ニシテ支出總額一萬〇〇九十五「マルク」ナリ

右ムンシエンノ放免囚徒救濟協會ト同様ナル協會重要ノ市府七ヶ所ニ振起シ地方協會ノ爲メニハ中央點ヲ爲スノ勢向アリ其中最モ重ナ

ルモノハヌルンスベルクニシテ三百名ト會員ト二ヶ所ノ救育所トチ有シ毎年ノ放免囚徒ヲ救濟ス

ブラウンシユヴァイクニ於テモ千八百七十七年以來ハ區郡共同ナル一協會アリ會員千四百八十人出金凡ソ二千六百マルクトス
ブレメンニハ千八百三十七年以來全ク宦衙ノ協力ナク只同府人民ノ力ニ成リタル一協會起レリ會員凡ソ二百八十人出金額二千八百十五
「マルク」ナリ救濟事務ハ概テ監獄ノ宣教師ニ於テ之ヲ負擔シ殊ニ千五百
「マルク」ノ給料ヲ與ヘタル役員之ヲ執行ス千八百七十九年ニハ九十
八人ノ囚徒ヲ救濟セリ

ヘツセンダルクスタットニ於テハ囚徒救濟制度ハ司法内務兩大臣之ヲ定メ協會上ニハ一ツノ中央局アリ一人ノ委員及ヒ十八人ノ各區委員其事務ヲ掌ル會員七百四十二人アリ一人ニ「マルク」乃至四「マルク」出金

チ爲ス千八百四十一年同會設立以來九千五百九十八人チ救濟シ其六分ノ一(即チ千六百人)ハ改良ノ効チ奏セリ又此會ノ會規ニ由ルニ凡救濟チ受クル放免囚徒ニハ其本籍又ハ住所ノ地ニ於テ必ス一人ノ會員チ定メテ之チ監督セシムルモノトセリ

普國ノ制

普國ニ於テハボーセンノ一冊チ除クノ外ハ各州救濟協會ヲ設ケアラサル所ナシ

伯林ノ協會ハ會員凡ソ百五十八人中五十四人ノ會員ヨリ千四百「マルク」ノ出金チ爲ス

ブランデンブルヒニハ會員凡ソ百人千八百六十七年來一個ノ救育所チ設立シ放免囚徒ノ用ニ供ス
 フランクフォールトニ於ケル協會ハ極メテ微小ナレトモ其事業ハ却テ幼者チ容ルヘキ救育所ニ備ハレリ

ボストナムノ協會ハ會員凡ソ六十名アリ年々二十人乃至三十人ヲ救
助スハンノーベル州ニ於テハハンノーベル府ニ一協會アリ會員凡ソ
三百人リッゲン及ヒメッペンニモ亦一協會アリ會員二百五十四人トス
○又ハンノーベル州ニハハンノンベール放免囚徒救濟中央協會アリ
各地方ノ諸協會ヲ統理シ且ツ之ヲ扶助スト云フ

フランクフォールト、アムニオンニハ千八百六十八年來放免囚徒救濟ヲ
目的トスル一協會アリ兼テ又囚徒ノ家族ヲ救助ス會員六百十五人
ニシテ歲入凡ソ一萬マルクナリ

ヴヰィースバーデンニ檢事スタルケ氏ノ設立セル一協會アリ會員凡ソ
五百四十餘人アリ

ステツチンニハ千八百五十五年來一協會起レリ會員二百人ニシテ歲
出凡ソ三千七百マルクナリ

クインツヒスベルヒニ於テハ千八百五十七年以來一協會アリ會員五百餘人アリ一ヶ所ノ救育所アリ囚徒ノ子弟ニシテ教育ナキモノヲ養育ス

ラインラント及ウエストフアレンノ州ニ於テハドツゼルドルフノ一協會エルベルヘルトリエールサールブルッケン、ハンムアウスベルヒ及ミンデンラーベンスプルヒノ十一ヶ所ノ女子協會四ヶ所ノ救育所及ヒ、三十ノ救濟會トス

サクセン州ニ於テハ千八百七十八年來エルフルトニ凡ソ二百七十余人ノ會員ヲ有スル一會アリ千八百七十七年以來ハマグデブルヒニ一ヶ所千八百七十三年以來ハルレニ一ヶ所ノ協會アリ共ニ放免囚徒ノ就業及ヒ救助ニ従事スレトモ現金ヲ以テ之レニ附與スルコトナシ又此協會ハ囚徒ノ家族ヲモ救助セリ

兩親ニ對スル子女ノ義務及ヒ權利ヲ論ス

第四編 兩親ニ對スル子女ノ義務及ヒ權利ヲ論ス

子女カ其兩親ニ對スル義務ハ前ニ述ヘタル親ノ子女ニ對スル義務ト同シク自然ノ道德ヨリ生スルモノナリ而シテブラツクストーン氏カ英國ノ慣習法ヲ説キタル節ニ子女ハ其兩親ヲ尊敬シ且ツ之ニ從順ナルヘキ義務アルコトヲ謂ヘリ是レ獨リ英國ノミ然ルニアラス何レノ國ニテモ多クハ法律ノ之ヲ命令シ且ツ道德ノ指示スル所ナリアゼン

ノ法律ニ據ルニ貧困ナル兩親ハ子女ニ於テ之ヲ養フノ義務アルコトハ子女ノ義務中最モ大ナルモノトセリ然レトモ英國法律ニ於テ子女カ其兩親ニ對スル義務ハ法律上ノ義務トシテハ極メテ漠乎タル不完全ナルモノニ過キス則チ別段法律ヲ以テ之ヲ明定シタルニアラス唯子女ノ道德心ニ依頼セシメタリ蓋シ斯クノ如クナル所以ハ英國社會

ノ組織ヨリ馴致シタルモノニシテ日本杯トハ大ニ異ナルモノナリ日本ニ於テハ家督相續ト稱シ愛戀引スレハ退隱シテ子ハ先祖傳來ノ財産ヲ相續スルヲ以テ固ヨリ漢傳ト父ヲ養フノ義務アルハ當然ナレトモ英國ノ有様ハ之ニ反シ原來相續ハ親ノ死去セサレハ開發スルモノニアラサルカ故ニ未タ父ノ財産ヲ得サル子女ニ於テ其父母ヲ養フノ義務ハ當然ニ生スルモノニアラサルナリ何トナレハ通常子女カ生長スルトキニハ必ス結婚ヲ爲シ新ニ一家ヲ興シ其一家族ノ爲メニ盡スヘキ義務既ニ重大ナルカ故ニ之ヲシテ更ラニ兩親ヲ奉セシムルコト難キノミナラス英國法ノ原則ハ何人ニテモ自家ノ勞力ニ依リテ自己ノ生存ヲ計ルヘキ義務アルモノトナセハナリ

依是觀之英國ノ習慣法ハ子女ニ其父母ヲ養フ義務ヲ負ハシメサルモノ、如シ然レトモ條例法ニ據リテ英國及ヒ合衆國ノ諸州ニ於テハ子

女ニ於テ其貧困ノ兩親ヲ養フノ義務ヲ定メタリ其理由ハ大凡世ノ中
ノモノ不幸疾病其他ノ原由ヨリシテ老年ニ至リ自活スル能ハサルモノ
アルハ勢ノ免レ難キモノニシテ斯クノ如キモノヲ生活セシムルニ社會
一般ノ恩惠ニ依頼セシムルヨリハ寧ロ其子女ヲシテ之ヲ盡サシムル
ハ獨リ子女カ其兩親ニ向テ道德上負フ所ノ義務ヲ盡スニ止マラス社
會ニ對スル義務ノ一部分ヲ盡スモノト謂ハサルヘカラサレハナリ之
ヲ要スルニ苟モ文明國ノ民ハ匹夫匹婦モ溝壑ニ轉セシムルニ忍ヒサ
ルヲ以テ子女ヲシテ之ヲ養ハシムルモノニシテ兩親カ自活スルヲ得
サルキニ限ルモノナレハ其兩親ニ於テ自活ノ途アルニ尙ホ左團扇ノ
快樂ヲ享ケン爲メニ養ハル、コトハ出來サルモノトス
以上ニ述ヘタルハ子孫カ其兩親ニ對スル義務ノ概畧ニシテ別段他ニ
云フヘキモノナシ而シテ子女カ兩親ニ對スル權利ハ如何ト云フニ即

子女ハ代理者トシテ取引ヲ爲シ其兩親ニ義務ヲ負ハシムルコトヲ
 得ヘシ而シテ必要品ノ場合ニ於テハ當然父ニ義務ヲ負ハシムルモノ
 ニシテ必要ナラサルノ時ニテモ實際ノ代理權アル場合ニハ其父ニ義
 務ヲ負ハスヲ得ヘシ
 子女ハ其兩親ニ隸屬スルモノナレトモ父ハ之カ隸屬ヲ脱セシメ獨立
 人トナスノ權アリ即チ子女ヲ獨立セシムルヲ原語ニテ「エマンシペー
 シヨン」ト云フ「エマンシペーシヨン」即チ獨立ヲ與フルコトハ羅馬法ヨ
 リ傳來セシモノニシテ羅馬ノ昔時ニ在リテハ子女ヲ賣買スルノ手續
 ナ以テ子女ニ獨立ヲ與ヘタルモノナリ
 子女ヲ獨立セシムルコトニ關シテハ英國法ト亞米利加法ト大ニ異ナ
 リ而シテ米國法ハ英國法ヨリモ羅馬法ノ主義ヲ採用セル點多シトス
 子女ヲ獨立セシムルコトニ付テ論スヘキコトハ第一其手續第二其結

果トス
第一手續ヨリ論センニ獨立セシムル手續ハ書面契約口頭契約又ハ兩親ノ舉動ヨリ獨立ヲ與ヘタルモノト推測スルコトアルヘシ而シテ米國ハ前々述フル如ク各州法律ヲ異ニスレトモ若シ子女ニ於テ是非分別ヲ爲シ得ヘキ年齢ニ達シタル場合ニハ其承諾ヲ必要トス而シテ何レノ場合ニ於ケルモ書面ヲ以テ子女ヲ獨立セシメタルトキハ子女ノ不利益トナルヘキ場合ヲ除クノ外ハ之ヲ有効ナラシムヘシ然レトモ口頭ノ契約又ハ口頭ノ許可ヲ以テ子女ヲ獨立セシムル場合ハ若シ其契約ニ約因アラスシテ未ダ之ヲ履行セサル間ナルトキハ何時コテモ之ヲ取消スヲ得ヘシ然レトモ何レノ場合ニテモ獨立ハ之ヲ證明スヘキモノニシテ推測スヘキモノニアラス而シテ情况ヨリ子女ヲ獨立セシメタルト見ル場合ハ謂ユル變例ニシテ必要ヨリ生スルモノナリ譬ヘハ

兩親子女ヲ放棄シタル場合又ハ子女ヲ他家ニ依托シタル場合其他類
似ノ場合トス即チ是等ハ必要上兩親ノ管轄ヲ脱シテ獨立ヲ得タルモ
ノトス

日本封建時代ニハ父子ノ間ニ勘當ト唱フルモノアリテ全ク父子ノ關
係ヲ絶ツコトアリ則チ父ノ犯シタル罪ヨリ刑罰一族ニ及ヒシ時ニモ
若シコノ勘當ヲ爲シテ父子ノ縁ヲ絶チシモノナルトキハ子ト雖モ刑
罰ヲ受クルコトナカリシ此方法タルヤ子女ニ獨立ヲ與フル一種ノ方
法ト云フヲ得ヘシ

兩親ハ許可ヲ得テ婚姻シタルモノハ獨立シタルモノトス而シテ承諾
ヲ得サルトキハ如何ナルヘキヤ疑ハシト雖モ要スルニ子女ヲシテ獨
立ヲ得セシムルヲ以テ便宜ト爲サ、ルヘカラス

第二獨立ノ結果ヲ論センニ獨立ノ結果ハ子女ヲシテ自ラ勞力シテ得

ダル利益ヲ私有セシメ自己ノ時間ヲ其自由ニ處分セシメ而シテ或點
 ニ於テハ自己ノ身體ヲモ自由ニ爲シ得ルモノトス而シテ他ノ一方ニ
 於テハ兩親ニ於テ獨立ヲ得タル子女ヲ養フノ義務ヲ免ル、モノトス
 即チ自由ヲ得タル子女ハ勞力ノ一點ニ於テハ父母ト恰モ他人ノ如キ
 有様ニシテ父母ト其獨立ヲ得タル子女ノ間ニ勞力ノ契約ヲ爲スヲ得
 ヘシ即チ親ヨリ一日幾何ト賃銀ヲ定メテ勞力ヲ供シ其賃銀ヲ要求ス
 ルヲ得ヘシ而シテ第三者ハ自由ヲ得タル子女ニ對シ凡テ通常人ノ如
 シ之ト取引ヲ爲スヲ得ヘシ
 子女廿一歳ニ達シタルトキハ法律上當然獨立ヲ得タルモノトス尤モ
 獨立ヲ得タルニモ拘ハラズ子女其親ト同居スルトキハ親ニ奉仕スヘ
 キ義務アルモノニシテ此點ニ於テハ疑アルコト少シ然レトモ若シ第
 三者ト其子女ト勞力ニ關スル契約ヲ爲ストキハ法律ハ子女ノ利益ノ

爲メニ第三者ハ子女ニ對シテ賃金ヲ拂フヘキモノトス
 子女ハ其兩親ノ財産ヲ相續フルノ權アリ而シテ英國法ニ據レハ長子
 ハ他ノ衆子ヨリモ特別ノ權ヲ有シ不動産ハ凡テ長子ノ有ニ歸スヘシ
 然レトモ米國コテハ凡テ子女ハ其男子タルト女子タルトヲ問ハズ平
 等均一ノ分配ヲ受クルモノトス條例ナキ場合ニ於テハ義子ハ其義父
 ニ對シ自己ノ勞力ヲ使用セラル、ノ義務ナキモノトス然レトモ若シ義
 父義子ヲ保管シ親ノ位置ニ立ツトキハ法律ハ之ヲ以テ眞正ノ眞子ト見
 做シ恰モ同一ノ義務ヲ負ハシム原來養子ナルモノハ英ノ習慣法ニハ
 見サルモノニシテ羅馬法ニハアリシモノナリ佛國法ニハ法律上規定
 シアレトモ世間ニ實際行ハレスト云フ然シテ日本等ニハ何人コテモ
 養子スルヲ得ルモ佛法ノ規定スル所ニ據レハ養父養子ヨリ性命ヲ救
 助サレタルトカ若クハ其他ノ恩義ヲ受クル等重大ナル親密ノ關係ア

ルモノニ限ルトセリ然シテ他人ヲ養フトキハ取モ直サス自分ノ子ト見做スユヘ己レノ女ヲ以テ妻ハスルコトヲ得ス日本ニテハ然ラス已レノ女アレハコソ之レニ女ス爲ソ他人ヲ養子ニスルコトナリ又佛法ニハ養子トナルモノ、若干ノ年齢ニ達シ是非曲直ヲ辨別シ得ルモノニシテ必ス承諾ヲ要スルコト、ナレリ日本ハ之ニ反シ提孩ノ兒ト雖モ尙ホ兩親ノ協議ヲ以テ他ニ養子ト爲スヲ得ルナリ此事タルヤ道理ヨリ云ヘハ實ニ不都合ナルモノニ似タリ何トナレハ凡ソ實子ナレハ親ノ貧富正直放蕩ハ皆天運ニシテ奈何トモスル能ハサレトモ養子ハ人爲ナリテ他人ト關係ヲ作ルモノニテ畢生ノ利害皆兩親ノ掌裡ニ存シ養子ニ往クモノハ毫モ之ヲ左右スルヲ得サレハナリ彼ノ白樂天ノ詩ニ人生勿爲婦人身百年苦樂頼他人ト云ヘルハ獨リ女子ノミニ適用セス尙ホ本邦ノ養子ニモ之ヲ適用スルヲ得ヘシ然リ而シテ此養子法

タルヤ遅々文化ノ進ムニ從ヒ廢滅ニ趣クヘシ

第五編 私生子ノヲ論ス

私生子トハ曾テ述ヘタル如ク適法ノ子女以外ノ者ヲ總稱スルモノ
ニシテ其權利及ヒ不能力ハ法律上適法ノ子ト同シカラス
元來私生子ノ權利ハ英國習慣法上極メテ漠然僅少ニシテ且ツ私生子
ハ法律及社會ノ交際上輕蔑誣辱ヲ受ケタルモノナリ例ヘハ學校ノ同
級生ニテモ私生子ト云ヘハ齒スルヲ愧ツル位ナリト云フ然リ而シテ
私生子ノ最モ大ナル不利益ハ親ノ相續人ト爲ルヲ得サルコト是レナ
リ加之ノミナラス甚シキハ他人ノ相續ヲモ爲ス能ハサルモノトセシ
國アリ

宗教法ニ於テハ私生子ノ子ハ宗教上ノ榮譽尊爵ヲ享受スル能ハサルモ
ノトス而シテ羅馬法ニ於ケルモ英國ノ習慣法ト同様其父母ニ對シテ

ハ法律上親子ノ關係ナキモノトス然レトモ羅馬法ニ於テハ英國習慣
 法ト稍寛ナル點アリ即チシヤスチニアン法令ニ依レハ私生子ト雖モ
 或範圍内ニ於テハ其母ヨリ相續スルヲ得ルモノトセリ而シテ近代ニ
 至リ英國ノ判決例ハ稍羅馬法ト同様ノ傾チ生スルニ至リタレトモ未
 タ確定シタルニアラス之ヲ要スルニ英國法及羅馬法ハ外面私生ノ子
 ト其父母ノ間ニハ關係ナキモノトシタレトモ其母トハ多少ノ緣故ヲ
 有セシムルニ至リタルハ時勢ノ變遷ト俱ニ止ムヲ得サルニ出タルナ
 ラン
 然ルニ英國ニテハ近代ノ貧民條例ニ依テ母ハ其私生ノ子ノ十六歳ニ
 至ルマテハ之ヲ養育スルノ義務アルモノトセリ而シテ若シ之ヲ怠ル
 トキハ懲罰ヲ受クルコトアルヘシ
 合衆國ニ於テハ私生子ノ兩親ト雖モ幾分カ其私生子ヲ保護スルノ義

務ヲ有シ且ツ之ヲ保管スルノ權利アルモノトシタリ然レトモ其定ム
 ル所ハ只法律ノ條文ニ止リ未タ充分ノ結果ヲ見ス
 私生子ハ其母ニ從フモノニシテ母ト同様ノ住居ヲ有スルモノナレト
 モコソ子クテカツト州ノ法律ニ據レハ私生子ト雖モ其生産ノ地ニ住
 處ヲ有シ父ノ住居ニ從テ其住居ヲ變更スルモノトシタリ
 習慣法ニ於テ私生子ハ其親ニ養ハル、ノ權利ナシト雖モ條例ヲ以テ
 私生子ノ母ハ其私生子ヲ其父ニ對シ養育セシムルヲ得ルノ救濟ヲ求
 ムルコト、セリ而シテ其養育ノ年限ハ子女十三歳ニ達スルマテトス
 即チ此條例ニ據ルモ私生子ハ直接ニ其父ニ對シテ權利アルニアラス
 母タルモノカ私生子ノ父ニ對シ救濟ヲ求ムルヲ得ルノミトス又佛法
 ニ依レハ私生子ハ其父ノ血縁ヲ探求スルヲ得ス然レトモ英法ハ左程
 甚シキニアラス

羅馬家族ニ關スル嚴格ナル理論及古代ノ慣例ニ於テハ其實チ得タル者ナラン

貴族ノ婚姻ニハ「コンファリエーシオ」ト稱スル儀式ヲ用ヒタリ此儀式ニ臨席シ得ルモノハジャスカラム宗教法ノ特權チ有スル人ニ限り其他ノ人ハ決シテ之レニ臨ム能ハサリシ而シテ只此ノ儀式舉行ノ一事チ以テ婦タル者ハ其夫ノ權内ニ屬セシモノトセリ平氏中ニハ婚姻ニ一定ノ儀式ナシ單ニ男女相結婚シ以テ婦チシテ夫ノ權内ニ歸セシメントスルニハ婦ノ父其女ヲ夫トナルヘキ人ニ「コイエムプシチ」ト稱スル賣買式ニヨリテ賣渡スモノナリ又婦女一年間其夫ト同居シタルトキハ「ユイサス（經時効）」ニ依テ婦ハ其夫ノ權内ニ歸スル者トス然レトモ婦女若シ一年ノ中ニ三連夜夫ノ家ニ在ラサルトキハ其夫ノ權内ニ歸スルチ妨クル者トス然レトモ平民ニ在リテハ恐ラクハ何レノ時代ニ於テモ男女相

婚シ而カモ其婦ハ其夫ノ權内ニ歸セサルコトヲ得タルカ如シ而シテ此方法ハ遂ニ近世婚姻ノ正則トナルニ至レリ蓋其婦カ其夫ノ權内ニ歸スルト歸セサルトハ家族ノ關係ニ於テ差異ヲ生スルコトナシ去レハ若シ夫婦タラント欲スルモノ婚姻權ヲ有スルトセハ家長權パトリアポテスタスノ如キ婚姻ニ依テ生スル所ノ結果ハ皆其婚姻ニ附着スルモノナリ

若シ夫レ男女正統ノ婚姻式ヲ履行セスシテ永々ノ結合コンキエヒチラス(即チ妾ヲ云フ

ヲ爲シ其間ニ小兒ヲ擧クルトキハ其小兒ヲ私生トチユラレスリベライノ子トス而シテ此等

ノ小兒ハ晩近ノ法律ニヨリレヂチマシヨ一(私生ノ子ヲ正當ノ子トナス手續ナリ)ト云フ

手續ヲ用ヰテ正當ノ婚姻ヨリ生シタル小兒ト同一ノ地位ニ立タシムルヲ得コンスタンチン帝以後ハ此等ノ小兒ハ其兩親カ該兒出生後ニナシタル正當婚姻ニ依リ法律上正當ノ小兒トナスコトヲ得タリ其他法律上正當婚姻以外ノ方法ニ依リテ男女結婚ヲナシ其間ニ生レタル小

少身分ノ減

兒ハ總テ其母ノ資格ヲ襲承スルモノナリ譬ヘハ其母自由人ナルトキハ子女モ亦自由人ナリ其母奴隸タルトキハ小兒モ亦奴隸タルカ如シ奴隸ノ結婚ハ之ヲ「コンチユーバルニアム」ト云フ而シテ此ノ結婚ハ假令ヒ嚴肅ナル儀式ヲ用ヒ又ハ信實ナル自然ノ結縁タルニセヨ法律ノ眼ヲ以テ觀ルトキハ野合私通ト毫モ異ナル所ナシ

第四十七節

身分ノ減小

完全ナル身分ヲ有スル人ハ其身分ヲ變更スルコトヲ得可シ而シテ其變更ハ身分ヲ組織スル三元素中ノ一ニ付キテ生シ得ル者ナリ(身分ノ三元素トハ第一自由ナルコト第二府民ナルコト第三家族員ナルコト是ナリ)

完全ナル身分中ニ含蓄スル權利ヲ使用スル能力ヲ稱シテ人ノ有スル身分權實行ノ能力ト云ヒ此ノ組織元素ノ一ニ於テ起ル變更ヲ稱シテ

身分權實行能力ノ減少ト云フ

今身分ニ起ル所ノ變更ヲ舉クレハ

第一 人ハ其自由ヲ失フコトアリ例セハ敵ノ虜囚トナリ或ハ嚴刑ニ

處セラル、時ノ如シ此身分ノ元素ヲ亡失シタルコトヲ稱シテ身分ノ

太滅ト云ヒ此ノ元素ノ損失ハ他ノ二元素ヲ併損スル者ニシテ即チ自

由タルノ身分ヲ失ヒタル人ハ又府民タルノ權利并ニ家族タルノ權利

ヲ併セテ失フモノトス

第二 府民タルノ權利ヲ失フコトアリ此損失ヲ稱シテ身分ノ中減ト

云フ而シテ府民タルノ權利ヲ失フトキハ家族タルノ權利ハ從ヒテ之

ヲ失フ者タリ然レトモ自由タルコトノ權利ハ之ニ由リテ損失スル者

ニアラス

第三 家族解散或ハ養子ニ依リテ家族員タルノ權利ヲ失フコトアリ

此損失ヲ稱シテ身分カヒテスデミニユシオカミニマノ小減ト云フ古代ニ在リテハ重モシヤスサケラムニ宗數法ノ部

分ニ屬スル所ノ權利アリテ人若シ其家族ヲ脱スルトキハ直チニ此ノ權

利ヲ失フモノトセリ然レトモ後世ニ至リテハ身分ノ小減ヲ受ケシ所

ノ人ト雖モ或ハ他家ニ入り或ハ自家々族ノ長トナルヲ以テ其實變更

ノ爲メ毫モ身分ヲ減却スルコトナシ而シテ第三ノ身分ノ變更ハ身分

ノ第一第二ノ元素ノ損失ヲ來サ、ルハ論ヲ待タサルナリ

第四十八節 名譽

完全ナル身分ヲ有スル人ハ他人之ヲ目シテ高貴名譽ノ人物ナリトセ

リ羅馬語ニテ其名譽ヲ稱シテ「エキジスナメーシヨ」ト云ヒ羅馬人ハ之

ヲ以テ各人ノ重要ナル所有ノ一トシ之ヲ尊重スルノ極多少法律ヲ以

テ之ヲ規定スルニ至レリ

人其自由ヲ失フトキハ其名譽モ亦共ニ之ヲ失フモノナリ又法律ハ或

人ノ生存
ノ終局

種ノ犯罪アルトキハ名譽ヲ毀傷スルモノト定メタリ而シテ若シ其犯罪ニシテ名譽ヲ毀傷スルコト甚大ナルトキハ爲メニ生シタル名譽ノ減少ヲ稱シテ公^{インフアミア}ノ耻辱ト云フ例セハ組合商人又ハ受托人等組合上ノ訴訟或ハ委托^{コンツァイト}上ノ訴訟ニ於テ處斷セラレタル時ノ如シ今此ノ公ノ耻辱ノ結果ヲ考フルニ犯罪者ハ投票權公ノ榮譽ヲ受クルノ權公訴ヲ提起スルノ權等ヲ剝奪スルモノトス然レトモ若シ其犯罪輕少ナルトキハ其結果ヲ稱シテ「タルピチユード」ト云フ而シテ若シ其犯罪者俳優等ノ如キ下等ノ地位ニ立ツ者ナルトキハ之ヲ稱シテ「レビスノータ」ト云フ即名譽ノ微瑕ト云フ義ナリ

第四十九節 人ノ生存ノ終局

己上論述スル所ノ者ノ外尙ホ吾人ノ注意ヲ要スルモノ一アリ即會社等ノ如キ特ニ法律ノ効力ニ依リ制作セラル、所ノ人ハ如何ナル方法

チ以テスルヲ問ハス法律カ其會社ノ存在チ止滅スルトキハ會社ハ其時ヨリシテ生存チ失フタルモノトス然レトモ一個人ノ場合ニ於テハ自然ノ人體ハ死去スルモ法律上ヨリ觀レハ其人ノ死チ以テ其人全ク消滅シタリトセス蓋其人ノ死スルヤ其瞬間ニ於テ直チニ其人ノ法律上ノ資格ハ其人チ代表スル人ニ移轉スレハナリ之チ別言セハ子タルモノハ其父ノ法律上ノ資格チ負擔シ相續人ハ遺囑者ノ資格チ負擔スルカ故ニ一己人ノ死チ以テ未タ遽カニ其人全ク消滅シタリト爲スチ得ス羅馬ノ法律家ハ死亡者代表チ説明シテ曰ク死亡者ノ法律上ノ資格ハ其之チ相續スル人ニ移轉スルモノナリ

第二章 物^レチ論ス

第五十節 物ナル語ノ用法

羅馬法ニ於テ物ナル語ハ人ナル語ト同シク廣濶ニシテ且故造ノ意義

物チ論ス
物ナル語
ノ用法

チ有スルモノナリ例セハ羅馬法ニ於テ人トハ權利チ有シ及權利ニ屬從ス可キ者ノ總テ法律上ノ人チ含蓄スル如ク物トハ總テ權利ノ目的タル所ノ物件チ含蓄スルモノナリ而シテ權利ノ目的タルモノハ無形即全ク法律ノ創制ニ係ルモノモアリテ單ニ有形ニシテ肉眼以テ見得可キ物ノミニ限ラサルナリ例セハ法律ハ田野チ占有スルノ權利及其地チ通行スルノ權利ノ目的ハ均シク之ヲ物ト稱スルナリ吾人ハ此等ノ權利ノ目的タル物チ區別セント欲スルニ當リ其分類ニ必要ナル一定ノ主義チ檢出スルコト能ハス蓋權利ノ目的物ハ之ヲ考察スルノ方法種々ナルチ以テ單一ノ方法ニ據リテ彙類チ爲サント實ニ難シ然レトモ左ノ區別ニ依リ第一ニ物ノ性質チ檢定シ其異同ニ基ク所ノ種類第二ニ人カ物ニ就テ有スル利益ニ基ク所ノ種類是レナリ

第五十一節

有形物無形物ノ區別

凡ソ物ハ有形ナルアリ或ハ無形ナルアリ即チ法學家ノ言チ用フレハ
「タンヂボスサント」感觸ス可キ物ナルアリ或ハ「タンヂノ」ボスサント」
（感觸ス可カラサル物）ナルアリ例セハ家屋田野ハ吾人ノ眼チ以テ之チ
視ルコトチ得ルト雖モ家屋ニ住スヘキ權利又ハ田野ノ果實チ收穫ス
ルノ權利ハ之チ見ルコト能ハサルナリ要スルニ人間ノ智覺チ以テ感
觸シ得可キモノハ即有形物ニシテ感觸シ得可カラサル腦裡ノ想像ハ
即無形物ナリ而シテ無形物ハ常ニ權利ニ於テ成立スル者ニシテ河ノ
流動スルチ見道路ノ原野ニ迂曲スルチ見ルトキハ吾人ハ感覺上ノ目
的物トハ相異ナル所ノ水チ使用スルノ權力及道路チ通過スルノ權力
チ想像シ得可シ此權力チ法律上稱シテ無形物ト云フ而シテ各人ハ一
家或ハ一田チ所有シ得ル權利チ有スルト同シク無形物チ所有スルノ
權利チ有スルコトチ得可シ之チ嚴密ニ言ヘハ田野ノ如キ場合ト雖モ

法律ノ認視スル所ハ田野其物ニアラスシテ田野ヲ所有スルノ權利ナ
リトス即此ノ權利ハ田野ヲ行通スルノ權利ト等シク無形物ナリ然レ
トモ羅馬法ハ世人ノ通常ニ談話スル方法ニ倣ヒ余ハ田野ヲ有ストカ
余ハ田野ノ上ニ於ケル行通ノ權利ヲ有ストカ稱セリ

第五十二節 動產不動產ノ區別

吾人ハ又有形物ヲ區別シテ動產及不動產ノ二種トス之ヲ羅馬語ニテ
「レスモビイル、シト、モベンテス」及「レス、ソリ、レス、イムモビイルス」ト云フ
此區別タルヤ實ニ明了ナル者ニシテ殆ト之カ解釋ヲ要セサルカ如シ
然レトモ唯一ツノ注意ス可キ點ハ或ル動產ハ常ニ不動產ト結合シ法
律上不動產ト認定サル、コト是ナリ假令ハ家屋ノ如キ其屋上ノ瓦ハ
箇々ニ之ヲ視ルトキハ動產ナリト雖モ其家屋ハ即不動產ナリ何トナ
レハ其土地ニ附着スルヲ以テナリ

可分物不可分物ノ區別

第五十三節 可分物不可分物ノ區別

物ハ又分割シ得ヘキ物及分割シ得可ラサル物トノ二種アリ譬ヘハ吾人ハ奴隸或ハ馬ヲ分割スルコト能ハス何トナレハ此等ノ物ハ之ヲ分割スルキハ至ク之ヲ分割セサル前ノ價值ヲ有スル能ハサレハナリ然レハ吾人若シ一田ヲ有シ之ヲ四部ニ分割スルキハ即チ吾人ハ四個ノ小田ヲ有スルモノニシテ此等ハ分割シ得ヘキ物トス

主物及從物ノ區別

第五十四節 主物及從物ノ區別

物ニ又主タル物從タル物トノ區別アリ主タル物トハ直接ニ權利ノ目的タルモノニシテ從タル物トハ直接ニ權利ノ目的タル物ノ一部分たり又ハ之ニ親密ニ附着スル物ヲ云フ例令ハ樹木ノ如キハ主タル物ニシテ其之ニ生スル菓實ノ如キハ即チ從タル物ナリ

第五十五節 族類ノ區別

族類ノ區別

物ニ又「ジーナス」(族)及「スベシース」(類)ノ區別アリ「ジーナス」(族)トハ物ノ全體ヲ意味スルモノニシテ即チ馬ト云カ如キ或ハ物ノ普通ノ名稱即チ酒、油、麥、ト云フカ如キ是ナリ「スベシース」(類)トハ或全體物中ノ一部若クハ「ジーナス」(族)中ニ含蓄スル物ノ一部ヲ意義スルコトアリ即チ此馬或ハ此瓶中ノ酒ト云フカ如キ格段ナル部類ヲ指シテ云フ左レハ馬或ハ油若干ヲ購求スルコトヲ約スルキハ其馬又ハ油ハ「シエチレ」ニ依リ決定セラル、モノト云ヒ又若シ格段ナル馬或ハ瓶中ノ油ヲ購求シタルキハ之ヲ稱シテ「スベシ」ニ依テ決定セラル、モノト云フ凡ソ油又ハ麥等ノ如キ普通ノ名稱中ニ抱括スル物ハ皆度量衡ヲ用ヒテ之ヲ分割シ得ルヲ以テ羅馬法律家ハ此等ノ物ヲ指シテ量リ數ヘ又ハ度ルヘキト云ヘリ(即チ羅匈語ニテ「クオーポンデー」ニ「メロメニスラベ」コンスタントト云フ)

單獨物及
集合物

第五十六節 單獨物及集合物

神聖物

吾人ハ最後ニ物ヲ區別シテ單獨物又ハ集合物トス集合マタル物ヲ以テ法律上之ヲ一箇物ト看做スモノヲ集合物ト云フナリ即チ羊ハ一箇ノ單獨物ニシテ之ヲ羅馬語ニテ「レスシンギユラレス」(單獨物)ト云ヒ群羊ハ集合物ニシテ之ヲ羅馬語ニテ「リラムユニバルシタス」(集合物)又ハ單ニ「ユニバルシタス」ト云フ彼ノ世襲財産及婚姻財産ノ如キハ勿論集合物ナリトス

第五十七節

神聖物レスサクラ

吾人ハ物件所有ノ權利ヲ有スル人ニ關シテ物ノ第二ノ區別ヲ爲スニ方リ先ツ神聖ナル性質ヲ有スル物ノ區別ヲ叙セント欲ス即チ神聖ナル性質ヲ有スル所ノ物ヲ神聖物ト云ヒ天神ニ供スル所ノ物品是ナリ又墓或ハ埋葬地ノ如キ之ヲ宗教物ト云フ地祇ニ供スル物是ナリ其他「レスサンクヌ」ト云フモノアリ即チ人間世界ノ物ナレトモ之ニ神聖ナル

性質ノ附着スルモノアリ城壁或ハ城門ノ如キ是ナリ

第五十八節 「アゲルローマナス」

又政府ヨリ或物ニ格段ノ性質ヲ有セシムルコトアリ即チ外國人ノ所
有ニ係ルモノヲ稱シテ「ペレグリナ」ト云ヘリ而シテ古代羅馬ノ範圍内
ノ土地即チ「アゲルローマナス」ハ特リ保證賣買ノ目的タルコト得及羅
馬固有法上格段ナル制度ニ由テ所有セラル、コトヲ得ルモノニシテ
他ノ土地トハ大ニ異ナルモノトス後世ニ至テハ伊太利國土ノ大半ハ
「アゲルローマナス」ト同一ニ取扱ハル、ニ至レリ而シテ「ソラム、イタカ
ム」ハ古代ノ所謂「アゲルローマナス」ノ特權ヲ有スル土地ノ總稱トナリ
「ソラム、プロビンシアル」土地ト相反對スルモノナリ「ソラム、プロビンシ
アル」ハ理論上政府ノ財産ニシテ一個人タルモノ決シテ十分ナル所有
權ヲ有スルコト能ハサル物ナリ而シテ此等ノ土地制度ハ實際ダイオク

「レス、マンシパイ」

レシアン帝ニ至リ廢セラレシヤスチニアン帝ニ至リ名實共ニ全ク廢棄セラレシモノナリ

第五十九節 「レス、マンシパイ」

「レス、マンシパイ」及「レスチツクマンシパイ」ハ古代ノ法律中ニ行ハレタル區別ナルカシヤチニアン帝ニ至リ全ク廢滅セラレタリ吾人ハウルピアン氏ノ文書ニ就テ「レス、マンシパイ」トハ如何ナル物ヲ指スカチ知リ得ルナリ蓋「レス、マンシパイ」トハ田舎ト都府トチ間ハス凡ヘテ農業ノ具ニシテ法律上特別ノ保護ヲ受クル物ヲ云フ例セハ奴隸牛馬等ノ如キ即チ是ナリ其他農業ノ具ニアラスシテ法律上特別ノ保護ヲ受ケサル物ハ皆之ヲ「チツク、マンシパイ」ト云フ而シテ「レス、マンシパイ」ニ於ケル所有權ハ獨リ「インシユレセスシオ」及「マンシペーシヨ」
（賣買ノ式第七十三節）
第八十一節「チ」ノ法式ヲ以テ之ヲ讓與賣買シ得ルモノニシテ即チ買者ハ參看ヘスシ

購求セント欲スル物品ヲ受取り自己ノ所有ナルヲ宣言シ然後銅塊
 ナ以テ秤量ヲ打チ之ヲ賣者ニ渡シ賣買讓與ノ式ヲ行フヲ云フ蓋シレ
 ス、マンシパイノ財産ハ古來農業社會ノ占有シタルモノニシテ此社
 會ニ於テ右財産所有權ヲ移轉スルニハ常ニ右ノ方式ヲ用ヒタルコト
 亦疑チ容ル可ラス古代農業社會ノ所有權ト他ノ財産トハ相對照スル
 ニ甲ノ場合ニ於テ慣習タル讓與賣買ノ方法乙ノ場合ニ於テ或ハ慣習
 ナラサルヲアリシ然レモ其時代及方法ノ如何ハ今日ヨリ之ヲ詳ニス
 ル能ハス斯カル慣習ハ漸次法律ノ認採スル所トナリ從テ法律上レス
 マンシパイ所有權ヲ移轉スルニハ必ス「マンシパイ」ノ法式ヲ要シ其他
 ノ物件讓與賣買ニ此式ヲ要セサルコトナリシモノナリ
 「マナス」トハ權力ヲ意味スル語ナルカ惟フニ是レ「マンシパイ」及「マンシ
 ペーシオ」ナル二字ノ根源ナラン「レス、マンシパイ」トハ其始メ所有者ノ

共有物及
私有物
無所
有者物件

手中ニ存スル物品又ハ所有者ノ手ヲ以テ得タル物品ヲ意味スル者ニシテ讓與賣買ノ際買主手カラ物品ヲ請取ルヲ要スルハ蓋シ賣主カ始メ其物件ヲ所有シタル方法ニ倣フヲ表スルモノナリ

第六十節

レスニシユースン
共享物及ヒ

レスバブリカレスブライベ^イダインノストロ、パトリモニオ、レスニユリアス
私有物、私有スヘキ物、無所有者物件

若シ夫レ所有ノ點ヨリシテ物件ヲ觀察セハ左ノ區別アル可シ例ヘハ海或ハ空氣等ノ如キ一個人ノ私有シ能ハサルモノ之レヲ「レス、コンミユチス」共享物ト云フ公有物「レス、パユブリカ」トハ政府ノ所有ニ屬スルモノニシテ航河、道路、國土等（エーヂャルロブリカス）「公有土地」ノ如キモノヲ指シ會社等ノ如キ集合体ノ所有物ヲ「レス、ユニヴエル」シタチス「共有物」ト云ヒ一個人ノ私有ニ屬スルモノヲ「レス、プリヴエター」私有物ト稱ス而シテ此等ノ物件ハ即チ一個人ノ所有シ得ベキモノニシテ羅馬語ニテ之レヲ「イン、ノストロ、パトリモニオ」ト云フ之レニ反シテ共享物公有物及ヒ神靈ニ供シ

權理及
其區別

第六十壹節 權利及其區別

タル物品ハ一個人ノ私有シ得ヘカラサルモノニシテ羅馬語ニテ之レ
 ナ「エキストラ、パトリモニアム」ト稱ス最後ニ無所有者物件トハ猛獸或
 ハ海中ノ鳥嶼ノ如キ所有者ナキモノヲ指スナリ

以上羅馬法ニ於ケル人ノ地位及ヒ物ノ區別ニ付キ其概畧ヲ論述シタ
 ルヲ以テ吾人ハ是レヨリ進テ人及ヒ物トノ間ノ關係ナル權利ト稱ス
 ル所ノモノヲ論究セント欲ス

抑々人類生存ノ地位ハ自然其力ヲ以テ物件ヲ支配スルノ必要ヲ感セ
 シムルモノニシテ財産ノ如キハ其昔種屬或ハ一團結ニテ之レヲ所有
 シ次ニ家族ニテ之レヲ所有シ而シテ最後ニ一個人ニテ之ヲ所有セシ
 モノナリ而シテ社會漸次ニ進歩シテ最後ノ位置即チ一個人財産ヲ私
 有スルノ域ニ達スルニ及テ所有主ハ其財産ニ關シ特別ノ利益ヲ有シ

他人ハ毫モ之レニ干渉スルコトヲ得サラシムルニ至レリ而シテ此ノ所有主ハ或ハ法律ノ制裁ニ依テ直接ニ其權利ヲ伸張シ他人ニ對シテ其占有物件ヨリ生スル利益ノ享得ヲ爭ハシメサルコトヲ主張シ或ハ又間接ナル場合アリ例ヘハ權利者ハ一人又ハ數人ニ對シ或ル物件ヲ所有センコトヲ請求シ又ハ勞役約束履行損害賠償等ヲ主張スルカ如キ即チ是レナリ而シテ斯ノ如キ權利ハ最初ヨリ格段ニ指定シタル人ニ對シテノミ主張スルヲ得ルモノニシテ廣ク社會一般ニ對スル權利ニ非ラス

以上記載スル所ノ區別ヨリシテ所謂對世權トノ對人權ト區別ヲ生シタリ蓋シ此ノ區別ハ羅馬ノ法律家カ其著書中ニ用ヒタル「ジュラ、イン、レ」及「ビ」ジュラ、アドレム」ノ區別ニ倣フモノニシテ後世註釋家ノ所謂「ジュラ、イン、レム」トハ廣ク社會公衆ニ對シテ有スルノ權利ニシテ之ヲ對

世權ト云ヒ「ジユス、アトレム」正シク云ハ、即チ「ジユス、イン、パルソナム」トハ社會中ノ格段ナル一個人ニ對スル權利ニシテ例ヘバ他人チシテ或ル物件ヲ與ヘシメ或ル事ヲ爲サシメ又ハ爲サバラシムル如キ之レチ對人權ト云フ而シテ對人權中ニハ人ナル思想ヲ措テ問ハサルヲ得サルヤ明シ如何トナレハ若シ人アリ此物ハ我有ナリト云フモ之ヲ拒ムノ人ナクンハ其所有ヲ爭ハント欲スト雖モ得ヘカラサレハナリ對人權中ニモ亦物件ノ思想ナカル可ラス如何トナレハ權利ノ目的ハ則チ物件ニシテ所有者ノ之ヲ與ヘ或ハ得或ハ爲シ或ハ爲サ、ラシメントスル所ノモノナレハナリ斯ノ如ク對世權及ヒ對人權ニ關シ錯雜ノ嫌ナキニシモ非ラスト雖モ其主要ノ原理ニ至ツテハ實ニ單簡明白ナルモノニシテ良シヤ此ノ法典或ハ有名ナル法律家カ採用シタル組織ノ如キハ其當ヲ得サルニセヨ彼輩カ實際ニ就テ人及ヒ物件ノ種々ノ

○英文法律書出版前金購買者募集廣告

實務ニ急需アル學術ハ法律ニ若クハナシ實地應用ニ適切ナル法律ハ英吉利法律ニ若クハナシ抑本校ハ邦語ヲ用ヒ主トシテ英吉利法律ヲ教授シ世務ニ能堪ノ士ヲ養成セシメコトヲ勤メリ然ルニ熟社會ノ情勢ヲ察スルニ今ヤ内外人ノ交際日ニ繁キヲ致スノ秋ニ方リ區々邦語ニ依リ外國法律ヲ授クルカ如キハ未以テ有爲ノ士ヲ陶冶スルニ足ラサルナリ本校夙ニ此ニ見ル所アリ本期ヨリ英語及歐文法律書攻修ノ科目ヲ創置セリ然ルニ之ヲ實施スルニ方リ大ニ不便ヲ感スルモノハ英吉利法律書ノ價值極メテ高貴ニシテ尋常學生ノ容易ニ購求スル能ハサル是レナリ加之坊間書肆ニシテ英吉利法律書ヲ蓄フル者甚稀ニ今試ニ各肆ノ律書ヲ網羅スルモ尙本校教科書ニ供スルニ足ラサルナリ是ニ於テカ本校ハ斷然資ヲ擲キテ英書ノ翻刻ニ從事シ務メテ其價ヲ廉ニシテ專ラ本校學生ノ教科書ニ充テ傍ラ江湖諸士ヲシテ容易ニ英法ノ原書ヲ購讀スルノ便ヲ與ヘント欲ス若夫レ出版及購求ノ方法ノ如キハ左ノ數箇條ニ就キテ了知セラレシコトナ

第一條 第二科第一年級ノ教課用ノ爲メ初歩ノ法律書中ノ最善良ナル者ヲ選ヒ翻刻スルニ付前金購買法ニ依リ廣ク江湖ノ需ニ應ス

出版書目 ○ブラクストン氏英法註釋 一八八〇年新版 ○アンソン氏契約法 ○アンダーヒル

氏私犯法○マークビー氏法律論綱○スミス氏商法○ポロツク氏組合法○ケント氏親族法○ブルーム氏英法註釋○スミス氏訴訟法○ストリー氏代理法

第二條 書籍ハ中形ノ冊子體ニ編輯シ毎月三回ニ分チ之ヲ出版シ一回ノ紙數一百ペーシ内外ニシテ一ペーシ凡十字詰四十行トス

第三條 一冊ノ定價ヲ四十錢トシ前金購買者ヘハ特ニ二割五分引即三十錢ノ代價ヲ以テ配付ス

第四條 前金購買者ハ一ヶ月分ノ代價即金九十錢ヲ前月末マテニ當校會計掛ヘ拂込ムヘシ

第五條 英吉利法律學校内外生徒ハ格別ニ五割引即一冊二十錢ノ代價ニテ購買スルコトヲ得但代價拂込手續ハ第四條ニ據ルヘシ

第六條 今回ノ出版ハ第一條ニ記載ノ書籍ヲ悉ク出版シタルトキハ第一回ノ英文出版事業ヲ了リタルモノトス

第七條 今回出版ノ書籍ハ英文法律書中ノ純粹ナル者ヲ撰拔シタルナレハ各専門公私諸學校中地方中學校師範學校等ノ教課書ニ最適當ナリトス

明治二十年四月

英吉利法律學校

○第一科教課及受持講師姓名

ハ参考科

一財 產

法同上

法學

土增島六一郎

○第一科教課及受持講師姓名

○ハ参考科
○ハ科外

- 第一學年
 - 一 法學通論 法全 時法學士 山田喜之助
 - 一 契約 法全 時法學士 土方寧
 - 一 私犯 法同上 時法學士 奧田義人
 - 一 親族 法全 時法學士 山田喜之助
 - 一 日本刑法 法同上 時法學士 岡山木兼吉
 - 一 代理 法同上 米國法律學士 菊池武夫
 - 一 動產委託法 法同上 法學士 元田義人
 - 一 組合 法同上 法學士 松野貞一郎
 - 一 英語 學同上 菅沼達吉
 - 一 英國刑法 法同上 法學士 澁谷惟忠
 - 一 羅馬法 法同上 法學士 水戸寬爾
 - 一 論理 學同上 法學士 坪井九馬三
 - 一 判決 學同上 法學士 植村俊平
 - 理財 學同上 法學士 駒井重格
 - 第二學年
 - 一 賣買 法同上 法學士 高橋捨六
 - 一 不動產 法同上 法學士 伊藤悌治
 - 一 不動產 法同上 法學士 山田喜之助

- 一 財產 法同上 法學士 增島六一郎
- 一 證據 法同上 米國法律學士 菊池武夫
- 一 會社 法同上 法學士 植村俊平
- 一 流通證書 法同上 法學士 土方寧
- 一 商船 法同上 法學士 高橋健三
- 一 治罪 法同上 法學士 松野貞一郎
- 一 訴訟 法同上 法學士 增島六一郎
- 一 刑擬律擬判 法同上 法學士 菊池武夫
- 一 判決 法同上 法學士 植村俊平
- 一 英語 學同上 菅沼達吉
- 米國法律 法同上 米國法律學士 シドモール
- 民訴 訟演習 同上 工藤繁人
- 刑法 學同上 法學士 三藤勝人
- 法理 學同上 法學士 奧田義人
- 成法 論同上 法學士 高橋健三
- 保險 法同上 法學士 伊藤悌治
- 國際 法同上 法學士 植村俊平
- 訴訟 演習 同上 法學士 東三條公恭
- 第二學年
 - 一 財產 法同上 法學士 增島六一郎

第一學年

一破產	法同上	法科大學 卒業生	中橋德五郎
一訴訟	法同上	法科大學 卒業生	增島六一郎
一保險	法同上	法科大學 卒業生	伊藤悌治
一衡平	法同上	法科大學 卒業生	戸水寛八
一沿革法理學	法同上	法科大學 卒業生	増島六一郎
一分折法理學	法同上	法科大學 卒業生	奥田義人
一羅馬	法同上	法科大學 卒業生	戸水寛八
一國際公法	法同上	法科大學 卒業生	植村俊平
一國際私法	法同上	法科大學 卒業生	山田喜之助
一判決	法同上	法科大學 卒業生	植村俊平
一民擬律擬判	法同上	法科大學 卒業生	山田喜之助
一英語	法同上	法科大學 卒業生	吉田直太郎
一憲	法同上	法科大學 卒業生	植村俊平
一行政	法同上	法科大學 卒業生	植村俊平
一米國法律	法同上	米國法律學士	江木衷
一動產差押法	法同上	米國法律學士	シドモール
一訴訟演習	同上	同上	同上
一民擬律擬判	同上	同上	同上
○第二科教課及受持講師姓名			

●英法註釋	每週一小時	法學士	山田喜之助
●日本刑法	同上	法學士	阿山 兼吉
●法律論綱	同上	法學士	馬場 愿治
●契約	同上	法學士	大谷木備一郎
●私犯	同上	法學士	菊池武夫
●代理	同上	法學士	元田 肇
●動產委託	同上	法學士	山田喜之助
●親族	同上	法學士	山田喜之助
●組合	同上	法學士	松野貞一郎
●訴訟	同上	法學士	澁谷 懋爾
●英國刑法	同上	法學士	澁谷 懋爾
●商	同上	法學士	伊藤悌治
●法律原論	同上	法學士	藤田隆三郎
●論	同上	文學士	坪井九馬三

○廣告

今般司法省ヨリ特ニ本校へ毎年金
五千圓宛下賜相成候條此段校外生
諸君へ御報致候也

明治二十年七月四日

英吉利法律學校

本校參用考書目

左ノ書籍參考用ノ爲メ本校生徒ニ限リ特別廉價ヲ以テ讓渡シ候

法學士渡邊安積編輯

○羅馬法

定價金壹圓
特別廉價金七拾錢
遞送費三拾貳錢

法學士渡邊安積講義

○アンソンの契約法

定價一冊金八錢
又ハ拾錢
拾三冊マテ出版濟

法學士山田喜之助著

○英米代理法

定價金壹圓
特別廉價金七拾五錢

法學士山田喜之助著

○補註英國私犯法

定價金七拾五錢
特別廉價金五拾錢

法學士山田喜之助著

○麟氏會社法

定價金壹圓三拾錢
特別廉價九拾五錢
遞送費金拾四錢

THE IGIRISU HÖRITSU

GAKKŪ TEXT-BOOK

英文法律書

第十六第十七號出版セリ○第十六號目次
●ブルーム氏英法注釋●第十七號目次●
ブラックストン氏英法注釋●アンソンの
契約法

英吉利法律學校

明治二十年四月十六日 (定價金貳拾錢)

持主 增島六一郎

印刷人 大谷木備一郎

編輯人 澁谷慥爾

神田區錦町貳丁目貳番地

發行所 英吉利法律學校